

学生の確保の見通しを記載した書類

目次

1. 新設組織の概要	1
(1) 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）	1
(2) 新設組織の特色	1
2. 人材需要の社会的な動向等	1
(1) 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	1
(2) 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	2
(3) 新設組織の主な学生募集地域	3
(4) 既設組織の定員充足の状況	4
3. 学生確保の見通し	7
(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	7
1) 既設組織における取組とその目標	7
2) 新設組織における取組とその目標	8
3) 当該取組の実績の分析に基づく，新設組織での入学者の見込み数	9
(2) 競合校の状況分析	10
1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性	10
2) 競合校の入学志願動向等	13
3) 新設組織において定員を充足できる根拠等	14
4) 学納金等の金額設定の理由	15
(3) 先行事例分析	17
(4) 学生確保に関するアンケート調査	17
(5) 人材需要に関するアンケート調査等	18
4. 新設組織の定員設定の理由	18

1. 新設組織の概要

(1) 新設組織の概要（名称，入学定員（編入学定員），収容定員，所在地）

新設組織	入学定員	編入学定員	収容定員	所在地
総合情報学部	100	—	400	青森県八戸市大字妙字大開 88-1

(2) 新設組織の特色

新設組織は、既存の工学部工学科（5 コース）および感性デザイン学部感性デザイン学科において蓄積された工学・デザインの教育研究実績を基盤とする。文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」の採択を契機として、本学の基本理念である「工学×デザイン×地域」を高度に進化・深化させ、現代社会の緊要な課題である地球環境保護（グリーン分野）および社会効率化（デジタル分野）の発展を牽引する高度専門人材を育成することを目的とする。これら教育研究を強力に推進すべく、既存の 2 学部を再編・融合し、新たに「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部の 3 学部」を設置するものである。

総合情報学部は、データサイエンスからメディア制作に至るまで、デジタル社会において新たな価値を創出する「社会情報 DX」「メディアデザイン」「コンピューターサイエンス」「サイバーセキュリティ」の 4 つのプログラムを展開する。現代社会においてデジタル技術が遍在化している状況を鑑み、情報科学およびメディアに関する基礎知識に加え、それらを社会課題の解決に資するべく活用するための「デザイン思考」を修得させる。最新の技術を具現化し、社会の変革と利便性向上を牽引する高度情報専門人材の育成および教育研究を推進するものである。

名称：総合情報学部

学位：学士（情報学），学位の分野：工学

【既存組織】

名称：工学部工学科，入学定員：250 名，収容定員 1,000 名

名称：感性デザイン学部感性デザイン学科，入学定員：50 名，収容定員：200 名

所在地の概要：青森県八戸市大字妙字大開 88-1

新組織開設後の予定：学生募集停止

2. 人材需要の社会的な動向等

(1) 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

現代社会は、第 4 次産業革命の進展と脱炭素化という二大潮流（DX および GX）の中にあり、これまでの産業構造を抜本的に変革することが不可欠となっている。国が掲げる「経済財政運営と改革の基本方針」においても、成長分野を牽引する専門人材の不足が指摘されており、高等教育機関に対しては、単なる知識の伝達に留まらず、社会課題を具体的に解決し得る実務能力を備えた人材を世に送り出すことが強く期待されている。

全国的な動向として、あらゆる産業においてデータサイエンスや AI の活用が標準化する中、技術を単なるツールとしてではなく、人々の生活を豊かにするための「価値創出」へ繋げられる人材への期待がかつてないほど高まっている。特に、技術の背後にある「人間中心の視点（デザイン思考）」を備えた IT 専門人材は、企業の競争力強化に直結する存在として切望されている。

また、北東北を中心とした地域的要請においても、少子高齢化に伴う労働力不足を背景に、生産性向上や新規事業創出のためのデジタル化は急務である。一次産業から製造業まで多岐にわたる産業界において、地域の実情に精通し、現場の課題をデジタル技術で解決できる高度情報人材の安定的な供給は、地域の持続可能性を左右する喫緊の課題となっている。

総合情報学部は、これら全国的・地域的な人材需要の動向に正面から応えるものである。激動する現代社会において、高度な専門知識と「デザイン思考」に基づいた実践的な課題解決能力を兼ね備えた人材を社会へと繋ぐことは、本学に課せられた極めて重要な社会的使命であると認識している。

(2) 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

・全国的な 18 歳人口の推移と進学動向

文部科学省の試算においても、2040 年における大学進学該当年齢人口の大幅な減少は「2040 年問題」として定義されており、高等教育機関には規模の適正化と教育の質的転換が厳格に求められている。

・地域的な 18 歳人口の急減と進学率の推移

【資料 1】「リクルート進学総研 マーケットリポート 2025（東北版）」に基づき、本学の主要な学生募集圏における入学対象人口の動向を分析する。

東北エリアおよび青森県における 18 歳人口の減少は、全国平均を大きく上回る速度で進行している。本学が所在する青森県の 18 歳人口は、2025 年の 10,307 人から 2037 年には 7,647 人へと、25.8% (2,660 人) の減少が予測されている。これは全国平均の減少率 16.8% を 9 ポイント上回る極めて深刻な推移である。東北エリア全体においても同期間に 25.3% の減少が見込まれており、地域的な入学対象人口の総数が大幅に収縮している状況は不可避である。

・大学進学志向の変容とニーズの分析

18 歳人口が減少する一方で、青森県内における大学進学志向は過去 10 年で顕著な伸長を見せており、これが本改組における志願者確保の蓋然性を裏付けている。

青森県の現役大学進学率は、2016 年の 36.3% から 2025 年には 48.5% へと、12.2 ポイントの大幅な上昇を記録した。これは東北平均 (47.5%) を上回る数値であり、地域における高等教育への期待と需要が極めて高いことを示唆している。また、短期大学への進学率が同期間で 5.4% から 3.6% へ低下している事実を鑑みれば、受験生のニーズがより高度かつ専門的な 4 年制大学教育へと明確に移行していることが読み取れる。

・改組による入学者確保の戦略的必然性

東北エリア全体の大学地元残留率は 2025 年で 35.8%（2016 年比 1.7 ポイント増）、青森県は 39.6%（2016 年比 2.3 ポイント増）のと微増傾向にあるものの、依然として若年層の広域流出は本地域の重要課題である。特に情報通信分野を志望する受験生において、最先端の教育・研究環境を求めて首都圏へ流出する傾向が顕著である。

こうした状況下、本学が「総合情報学部」へと改組し、「コンピューターサイエンス」および「サイバーセキュリティ」という情報学の基幹・高度領域から、「社会情報 DX」「メディアデザイン」といった情報の社会実装・応用領域までを網羅した付加価値の高い教育課程へ再編することは、県外流出層を強力に抑止し、地域内に高度専門人材を留めるための極めて有効な施策である。

18 歳人口の減少という外部環境の厳しさは存在するものの、デジタルスキルの習得を前提とした「4 年制大学志向」は全国的に深化している。本改組により、技術の深掘りから社会活用までをカバーする 4 つのプログラムを提示することで、拡大する進学需要を確実に取り込み、中長期的な入学者確保を実現することは十分に可能である。

・専門領域の拡大による新規受験層の開拓

従来の工学志望層に加え、4 つのプログラムを軸としてターゲットを明確化することで、以下の層を確実に取り込む。

「コンピューターサイエンス」「サイバーセキュリティ」：高度な技術習得を目指す従来の理系上位層および、サイバー防衛等の特殊技能に関心を持つ層。

「社会情報 DX」「メディアデザイン」：データサイエンスによる社会変革や、感性を活かした情報発信を志向する、文理を問わない幅広い受験層。

これにより、これまで本学の選択肢に含まれていなかった層へ訴求し、志願者の分母を拡大する。

・リカレント教育および社会人需要の創出

地域産業の DX 化に伴い、地場企業における現役技術者や自治体職員の再教育需要が急増している。特に「社会情報 DX」による業務効率化や、「サイバーセキュリティ」によるリスク管理の学び直しは、社会人のニーズに直結している。新設する 4 プログラムは、社会人の実務に即した実践的な教育内容を内包しており、18 歳人口に依存しない新たな入学対象層を創出するものである。

*添付データ：【資料 1】「リクルート進学総研 マーケットレポート 2025（東北版）」

(3) 新設組織の主な学生募集地域

【資料 2】（別紙 1）に示す通り、青森県内における私立大学全体の 2025（令和 7）年度入学者（出身高校所在地別）の構成比を見ると、青森県内出身者が 83.0%と大半を占め、次いで岩手県（6.9%）、秋田県（5.0%）の順となっている。これに対し、本学の同年次入学者（215 名）は、青森県内出身者が 78.14%（168 名）である一方、岩手県が 13.02%（28 名）、

秋田県が 2.79%（6 名）となっている。東北 6 県出身者の合計は 96.74%に達し、特に北東北 3 県（青森・岩手・秋田）で 93.90%を占めているのが特徴である。

本学の入学者実績を詳査すると、岩手県出身者が県内私大平均（6.9%）の約 1.9 倍にあたる 13.02%を占めており、地理的近接性や本学の教育資源に対する近隣県のニーズを背景として、県外からも安定的な入学者を確保している。

本学の主たる募集地域である北東北 3 県は、全国的にも人口減少と若年層の流出が喫緊の課題となっている。このような状況下において、本学の入学者構成が北東北 3 県で約 94%を占めている事実は、本学が地域における「高等教育の受け皿」としてのみならず、「地域人材の還流・定着」を担うハブとして機能していることを示している。

以上のデータから、本学は県内他大学と比較して岩手県等からの流入が顕著であり、北東北 3 県を中心とした広域的な募集基盤を有しているといえる。したがって、新設組織においても北東北 3 県を主たる学生募集地域として設定することは、過去の実績に照らして十分な妥当性がある。

本改組においては、この強固な募集基盤を礎とし、地域産業界や自治体との連携をさらに強化する。具体的には、地域課題を教育リソースとして活用する実践的なカリキュラムを通じて、高度な専門性と地域愛を兼ね備えた人材を育成する。

育成された人材を再び北東北の産業界へ輩出する「人材育成と供給」のサイクルを確立することは、停滞する地域活性化への直接的な寄与となり、ひいては地方私立大学としての不可欠な地域貢献を果たすものである。以上の観点から、本学が北東北 3 県を主たる募集地域として設定し、教育組織を改組することは、地域社会の持続可能性を担保する上で極めて高い妥当性と必要性を有している。

・添付データ：【資料 2】新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）

(4) 既設組織の定員充足の状況

【資料 3】（別紙 2 の 1）に示す通り、大学全体の収容定員 1,200 名に対し、在籍学生数は 818 名、充足率は 0.68（68%）に留まっている。この数値は、既存の「伝統的工学」および「感性デザイン」という枠組みが、現在の学生ニーズや社会情勢と乖離し、学生の定着および確保において課題を抱えていることを示唆している。

＊添付データ：【資料 3】既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 2 の 1）

1) 工学部工学科の入学定員の充足率の状況（直近 5 年間）

【資料 3】（別紙 2 の 2-1）に示す通り、令和 3 年度には定員を上回る充足（1.04）を記録していたが、令和 5 年度（0.66）、令和 6 年度（0.60）と急激な低下を見せている。直近の令和 7 年度は 0.73 まで回復しているものの、5 ケ年平均充足率は 0.79（79%）に留まっており、定員 250 名の維持が困難な状況であることが客観的な数値からも明らかである。

① 入試区分別の入学動向と課題

・総合型選抜（平均入学者：81 名 / 募集人員：49 名）

募集人員を大幅に上回る入学者を恒常的に確保しており、本学を第一志望とする層の受け皿として機能している。しかし、令和3年度（104名）から令和5年度（57名）にかけては一時的に半数近くまで減少しており、年内入試層においても市場の影響を強く受けている。

・学校推薦型選抜（平均入学者：65名 / 募集人員：67名）

概ね募集人員に見合った入学者を安定して確保できている区分である。辞退者が極めて少なく、歩留まりが非常に高い点が特徴である。

・一般選抜および共通テスト利用入試（課題となる区分）

最も深刻な課題は年明け以降の選抜である。一般選抜は、令和3年度の25名から令和6年度には6名まで激減した（平均17名）。共通テスト利用は、令和3年度の64名から令和6年度以降は20名台（平均35名）まで低下している。

これらの区分は募集人員（一般58名、共テ76名）に対し充足率が著しく低い事実は、他大学との併願者が多い層において「本学を選ぶ理由」が弱まり、定員250名を充足させるための牽引力となっていないことを示している。

② 分析のまとめと改組の妥当性

過去5年間の志願・入試データ分析の結果、既存の工学部（定員250名）という画一的な枠組みは、多様化する現代の受験生ニーズに対してミスマッチが生じていることが明らかとなった。特に、一般選抜および共通テスト利用入試において、従来型の「工学全般」を掲げるだけでは他大学との差別化が困難であり、入試後半戦における志願者の積み上げが構造的に停滞していることが充足率低下の主因である。この現状を打破し、持続可能な学部運営を実現するため、本改組において以下の施策を講じる。

・定員の適正化と専門性の先鋭化

既存の250名の定員枠を解体し、進学需要調査で極めて高い関心が確認された「総合情報学部（100名）」を独立させる。定員を100名へと最適化し、さらに「社会情報DX」「メディアデザイン」「コンピューターサイエンス」「サイバーセキュリティ」という4つの出口（プログラム）を明示することで、志願者の学習意欲と定員枠を密接に合致させ、初年次からの高い定員充足率を確実なものとする。

・「総合情報」による募集力の再構築と志願層の拡大

従来の「工学」という名称ではリーチできなかった、社会課題解決やデジタル表現を志向する層に対し、「総合情報学部」というブランドを提示することで募集力を再構築する。

第一志望層の深化：総合型・学校推薦型選抜において、特定のITスキルやデジタル活用に強い関心を持つ「明確な目的意識を持つ層」を確実に獲得する。

一般選抜層への訴求力強化：専門領域を4プログラムに細分化・明確化することで、併願先を検討する受験生に対しても「自身の将来像に直結する学び」として強い選択動機を与え、入試全般における競争力と歩留まりの向上を図る。

*添付データ：【資料3】既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）（別紙2の2-1）

2) 感性デザイン学部感性デザイン学科の入学定員の充足率の状況（直近 5 年間）

【資料 3】（別紙 2 の 2-2）に示す通り、5 ヶ年平均充足率は 0.75（75%）である。令和 3 年度には定員を上回る充足（1.06）を達成していたが、翌令和 4 年度以降は定員割れの状態が継続している。特に令和 5 年度には充足率 0.52（入学者 26 名）まで落ち込んでおり、小規模組織ゆえに志願者の僅かな変動が充足率に深刻な影響を及ぼす不安定な状況が顕著となっている。

① 入試区分別の入学動向と課題

・総合型選抜および学校推薦型選抜（年内入試への依存）

入学者全体の平均約 77%が年内入試によるものであり、本学科を第一志望とする層の確保に依存している。しかし、総合型選抜は令和 3 年度（29 名）から令和 4 年度（9 名）へと急落した後、16～17 名程度で推移しており、安定性に欠ける。

・一般選抜および共通テスト利用入試

一般選抜の入学者は 5 ヶ年平均で 3.2 名であり、令和 5 年度には 0 名を記録した。共通テスト利用も平均 5.2 名に留まる。併願を前提とする一般受験層に対し、「感性デザイン」という名称や学問領域の強みが十分に訴求できていないことを示唆している。

② 分析のまとめと課題と改組の妥当性

・市場認知と併願力の弱さと規模の不利益

一般選抜での入学者が極めて少ないことは、国公立大学や他大学との併願先として選ばれていない現状を露呈している。また、定員 50 名という規模では、教育・研究の多様性をアピールしにくく、特定の狭い関心層（年内入試層）以外に波及していない。

・既存概念の限界

「感性デザイン」という名称が内包する芸術・感覚的なイメージと、実際の工学的基盤とのバランスが受験生に正しく理解されておらず、募集上のミスマッチが生じている。

・改組（総合情報学部）への必要性

以上の分析結果を踏まえ、本学では当該学科を解体・発展的に解消し、高度な情報技術と柔軟な社会実装を軸に据えた「総合情報学部（定員 100 名）」へと再編する。

本改組の大きな柱は、従来の「感性デザイン」が培ってきた表現力や感性的アプローチを継承・進化させた「メディアデザイン」および「社会情報 DX」、そして、現代の情報社会を支える強固な技術基盤となる「コンピューターサイエンス」と「サイバーセキュリティ」の計 4 プログラムである。

「メディアデザインプログラム」では、核となるクリエイティブ能力に最新のデジタル技術を融合させ、UI/UX やコンテンツ制作といった出口の明確な表現領域を提示することで、創造性の高い層の関心に応える。また、「社会情報 DX プログラム」では、データサイエンスや情報工学を実際の社会課題解決に適用する実学を強化し、DX 人材を志向する一般選抜層を含む広範な層からの志願者獲得を目指す。さらに、技術的深化を担う「コンピューターサイエンスプログラム」では、AI やソフトウェア開発の根幹を支えるエンジニアリング能

力を、「サイバーセキュリティプログラム」では、安全な情報社会を維持するための高度な防御技術を修得させる。

これら4つの領域を横断的、あるいは専門的に配置することで、単なるITスキルに留まらず、人間中心のデザイン思考を持って社会に新たな付加価値を創造できる「総合情報人材」を安定的に輩出する体制を整える。

***添付データ：【資料3】既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）（別紙2の2-2）**

3. 学生確保の見通し

(1) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

1) 既設組織における取組とその目標

【資料4】（別紙3）に既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績を示す。本学がこれまで実施してきた広報・PR活動の実績を分析した結果、特に「オープンキャンパス」および「大学案内（資料請求）」の二つの活動が、入学者確保に極めて高い寄与度を持っていることが明らかとなった。近接する学問分野を持つ既設組織（工学部・感性デザイン学部）における過去2年間の実績は以下の通りである。

・添付データ：【資料4】既設学科等の収容定員の充足状況（別紙3）

① オープンキャンパスの実施と入学への寄与

本学では、各学部・学科の教育内容や特色を直接体験できるオープンキャンパスを継続的に開催している。

- ・令和6年度入試: 受験対象者194人のうち、112人が入学（入学率 57.7%）
- ・令和7年度入試: 受験対象者150人のうち、94人が入学（入学率 62.7%）

オープンキャンパスに参加した受験対象者の入学率は、直近2年間の平均で約6割(60.2%)という高い水準に達している。このことから、実際のキャンパスライフや施設・教員に触れる「対面型・体験型」のPR活動が、本学への志望度を決定づける極めて有効な手段であることが立証されている。

② 大学案内の配布・資料請求によるPR効果

大学の全体像や将来のキャリアパスを提示する「大学案内」の配布状況についても、着実な実績を上げている。

- ・令和6年度入試: 受験対象者5,000人のうち、111人が入学（入学率 2.2%）
- ・令和7年度入試: 受験対象者5,500人のうち、102人が入学（入学率 1.9%）

配布部数は前年度比で500部（10%）増加しており、本学に対する潜在的な関心層は拡大傾向にある。広範な資料配布を通じて認知度を向上させ、その一部を確実に受験・入学に繋げる「プッシュ型」の広報戦略が機能している。

③ 教員向け説明会・見学会を通じた地域連携

北東北3県（青森・岩手・秋田）を中心に、年間12回、約40校の高校教員を対象とした説明会や見学会を実施している。取組内容は教育特色、学生支援、就職・入試情報の詳細

を教員に直接説明することで、進路指導の現場における本学のプレゼンス向上を図っている。特に県内高校を対象とした体験実習や模擬授業を通じて、教員を介した質の高い志願者確保に努めている。

***添付データ：【資料4】既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績（別紙3）**

2) 新設組織における取組とその目標

① 学生募集のためのPR活動の方針及び戦略

既設組織における分析結果（オープンキャンパス参加者の入学率約60%、大学案内の資料請求数増加など）を踏まえ、新設組織では以下の3点を柱とした戦略を展開する。

・「体験型広報」の深化と女子受験生ターゲットの拡大

高い入学率を誇るオープンキャンパスを広報の核とし、総合情報学部の「AI・データサイエンス」「メタバース」「サイバーセキュリティ」等の最先端領域に対応したICT設備をフル活用する。単なる見学に留まらず、「生成AIを用いたコンテンツ制作」や「データ解析によるマーケティング体験」といった、文系志向の生徒でも直感的に楽しめる体験メニューを戦略的に配置。これにより、従来の情報系志願層のみならず、社会科学やクリエイティブ分野に関心を持つ幅広い層をデジタルの世界へ誘致する。

理工系(STEAM)分野におけるジェンダーバランスの最適化を重要課題と位置づけ、2024年度に設置した「STEAM女子推進・支援室」の活動を全面的に発信する。女子学生が意欲的かつ安心して学生生活を送ることができるよう、学内施設の整備（アメニティの充実等）や、女子学生チームによるITプロジェクト、学年を横断した「女子学生交流会」の実施状況を可視化。これにより、IT業界の男性中心的なイメージを払拭し、入学後に想定される不安（学習、一人暮らし、就職活動等）を解消する独自のサポート体制を強力に訴求する。

さらに、女子生徒を対象とした「指定校制女子特別枠」の活用を推進する。本制度は、女性の活躍を熱望する地域企業50社以上からの寄付金を原資に入学金相当額を給付するものである。これは単なる学内制度に留まらず、「DX推進の鍵を握る女性IT人材」を社会が強く求めているという実証的事実を、本人、保護者、および進路指導教員へ明確に提示するものである。

加えて、総合情報学部の専門性と女性のキャリアパスの親和性を強調する。具体的には、データ分析に基づく社会課題の解決や、UXデザイン（ユーザー体験）における女性ならではの視点の重要性、さらにはリモートワーク等を含む柔軟な働き方が可能なデジタル職種の魅力を提示。「ITで社会を効率化したい」「デジタルで表現したい」という多様な志を持つ女子学生の夢が、本学の教育を通じて実現可能であることを、在学生の実例を交えて紹介し、志願者の獲得を図る。

・デジタルとアナログのハイブリッド展開

増加傾向にある「大学案内」の請求数をさらに伸ばすため、Web広告やSNS（Instagram, X等）を用いたターゲティング広告を強化し、資料請求からオープンキャンパス来場、そして出願へと繋げる「リード育成」を強化する。

・「選ばれる理由」としての出口戦略（人材需要）の可視化

人材需要調査で明らかになった「情報・IT 人材の圧倒的な不足（有効求人倍率 1.39 倍以上）」と、本学部が育成する「付加価値を創造できる IT 人材」の市場価値を具体的な数値や図表を用いて可視化する。入学定員を大幅に上回る求人ニーズが存在することを明確に示し、保護者や進路指導教員に対し、新設組織での学びが将来の確実なキャリア形成に直結することを強力に訴求する。

キャリアの多様性と汎用性の提示：IT・クリエイティブ業界に留まらず、製造、金融、自治体、農林水産など、あらゆる産業の DX 部門で本学部の卒業生が必要とされている現状を強調する。これにより「情報学」が特定の業界だけでなく、全産業で通用する「汎用性の高い専門スキル」であることを提示する。

文理の枠を超えた志願者獲得：「実学としての情報学」が、理系・文系という従来の枠組みを超えた高度な職業資格に近い価値を持つことを訴求する。数学やプログラミングを基礎から積み上げる教育体制と、将来の安定したキャリアパスをセットで提示することで、北東北全域および隣接県からの広域的な志願者獲得を目指す。

② 実施計画・目標

・オープンキャンパス

年間 4 回以上の開催。総合情報学部はメディアデザイン／社会情報 DX の 2 プログラムを軸に、「AI×クリエイティブ体験」や「女子学生による IT キャリア座談会」などの特別公開講座を併催する。これにより、総合情報学部への志望者を既設実績から 30%以上向上させる。

・大学案内・資料請求

新学部のスタイリッシュなブランドイメージを反映したパンフレットを早期作成。配布目標を年間 6,000 部とし、特に「IT×デザイン」に関心の高い層が多い北東北・仙台圏等の主要都市部への配布網を拡大する。

・高校訪問・教員説明会

北東北 3 県を中心に年間 600 校以上の訪問を実施。「文系・理系の枠を超えた総合情報学の必要性」や「女子学生のキャリア優位性」を直接説明し、進路指導教諭からの信頼獲得と推薦枠の確保を図る。

3) 当該取組の実績の分析に基づく、新設組織での入学者の見込み数

既設組織の実績（平均入学率等）に基づき、総合情報学部（定員 100 名）を中心とした入学者見込み数を以下の通り算出する。

① オープンキャンパスによる見込み（60 名以上／学部）

既設実績（入学率 62.7%等）から、参加した受験対象者の約 6 割が入学に至ることが証明されている。総合情報学部では、理系女子層を含む新規ターゲットの流入により、参加受験対象者を年間 100 名以上（3 学部合計 300 名）に引き上げる。これにより、学部定員の 6 割をこのルートから確実に確保する。

② 大学案内・資料請求による見込み（40 名以上／学部）

資料請求者の入学率は約 2%で推移している。全学で年間 6,000 部の請求を目標とすることで、全体で 120 名、総合情報学部単体で 40 名以上の入学者確保を見込む。特に、Web 広告や SNS（Instagram 等）を通じた「総合情報」へのダイレクトな請求数を最大化させる。

③ 総合評価

上記の主要な取組に加え、指定校推薦枠の適正配置や教員向け説明会による誘導を組み合わせることで、総合情報学部の定員 100 名（3 学部合計 300 名）を安定的に充足させることは、過去の実績値に照らしても十分に達成可能な数値であると判断される。

(2) 競合校の状況分析

1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

1-1) 競合校の選定理由

本学の主たる学生募集地域である北東北 3 県において、理工系・情報系・デザイン系への進学を希望する志願者は、本学のほか、仙台圏に所在する「東北工業大学」および「東北学院大学」を主な併願先とする。両校は本学と設置分野が類似しており、志願者確保における直接的な競合関係にある。

① 東北工業大学との比較

東北工業大学は、伝統的な工学体系を維持し、情報分野を工学部内の一学科（情報通信工学科等）として位置づけている。各分野の裾野を広く網羅する汎用的な教育に強みを持つが、情報技術の急速な進化への対応という点では、既存の工学枠組みに制約される側面がある。また、工学部に加え「ライフデザイン学部 経営デザイン学科」を擁し、経営学やデザインの視点に情報通信技術（ICT）や DX の基礎を融合させた、文理融合的なアプローチに強みを持っている。同大は、各分野を横断的に網羅する汎用的な教育を提供する一方で、情報技術の扱いは経営やデザインを補完する「ツール」としての位置付けに留まる側面がある。

これに対し、本学の優位性は「組織の先鋭化」にある。本学は「総合情報学部」として独立させることで、ICT を単なる補完ツールとしてではなく、社会を根本から変革する「基軸技術」として捉えている。具体的には、DX、AI、サイバーセキュリティといった現代的課題に特化した機動的なカリキュラムを構築している。広範なリテラシー教育に重点を置く同大に対し、本学は情報技術そのものを深化させると同時に、それを「メディアデザイン」や「社会情報 DX」として実社会にダイレクトに結びつける。これにより、現代社会が切実に求める「付加価値を創造できる高度な専門人材」の育成において、より明確な出口戦略と即戦力性を提示している。

② 東北学院大学との比較

東北学院大学の情報学部は、データサイエンス学科のみの一学科構成であり、主にビッグデータの統計的分析やデータ利活用に特化した教育を展開している。総合大学としてのリソースを背景に、都市部での文理融合教育を推進している。

これに対し、本学総合情報学部の特長性は、データサイエンスのみに留まらない「情報技術の包括的な網羅性」と「地域実装型教育」にある。本学は、データ解析能力はもちろんのこと、それを支えるネットワークインフラ、サイバーセキュリティ、さらには「デザイン思考」を用いた社会課題の解決までを広くカバーする。

データ分析に特化した教養重視の同大に対し、本学は北東北の基幹産業（一次産業や製造業）の現場における「情報の社会実装」を重視。地域社会の具体的なフィールドで技術を応用する実践的な専門深化教育を提供しており、地方の存続に直結する課題解決能力において明確な差別化を図っている。

1-2) 学部・組織構成、教育内容の特長性

本学は「総合情報学部」として独立した組織編制を採用することで、計算機科学の理論的探求に留まらず、情報技術を社会課題の解決や文化創造へと適合させる「総合的・多角的な視点」を教育の核に据えている。この組織的独立性は、全産業で DX（デジタルトランスフォーメーション）が急務とされる現代において、従来の工学の枠組みを超えた柔軟かつ実践的な人材育成を可能にする本学独自の強みである。

① 社会情報 DX / ②メディアデザインプログラム

先行他大学が通信技術のハード・ソフトや基礎理論の教育を主眼とするのに対し、本学の「社会情報 DX」では、地域の行政や一次産業の課題をデジタル技術で解決する実学を提供する。特に、仙台圏等の都市部大学にはない「地方都市のリアルなデータ」に基づいた実践的な教育を展開する。また「メディアデザイン」においては、本学の強みであるデザイン工学の知見を活かし、情報技術を感性や表現に昇華させる、技術と芸術が融合した独自の教育領域を確立している。

③ コンピューターサイエンス / ④サイバーセキュリティプログラム

競合校が通信プロトコルや伝統的な情報処理に強みを持つ一方、本学ではサイバーセキュリティを独立した重点プログラムとして明示している。地方公共団体や地域企業から急増するインフラ保護ニーズに応えるべく、高度な専門性と倫理観を兼ね備えた希少な人材を育成する。また「コンピューターサイエンス」は、先進工学部の各分野（ロボット・モビリティ等）と密接に連携し、「動くシステム（ハードウェア）」を制御・知能化するための高度な計算機科学として、工学系大学の強みを最大限に活用した教育を展開する。

1-3) 経済的支援の妥当性と戦略的特待制度

本学の学納金体系は、近隣の仙台圏に所在する私立理工系大学と比較し、低廉な水準に設定されている。これは、青森県および北東北 3 県における経済状況を鑑み、家計の経済的負担を抑制することで、意欲ある学生に対する修学の機会を広く保障することを目的としている。仙台圏の諸大学と同等以上の教育研究環境を維持しつつ、経済的障壁を低減した学修機会を提供することで、修学の継続を組織的に支援している。

また、地域における優秀な人材の流出を抑制するため、学校推薦型選抜の合格者のうち、全体の学習成績の状況が 4.6 以上の学生に対し、授業料の 2 分の 1 を給付する手厚い特待

制度を運用している。これにより、国公立大学志望層を含む層に対し、地元進学への強力なインセンティブを提示している。加えて、入試成績のみならず地域貢献への意欲を評価する独自の支援枠を設け、意欲ある若者の進学機会を保障している。

1-4) 学修保障と継続的支援

・「学習支援センター」による学修保障

教員一人あたりの学生数が少ない本学の特性を活かし、学習支援センターによる基礎学力の補完体制を構築している。入学時における学力の多様化に対応し、リメディアル教育を通じて高度な専門教育へ円滑に移行させる体制は、学生一人ひとりに目が届く本学独自の強みである。

・「担任制度」による継続的支援

大規模校における組織的な事務対応に対し、本学では入学から卒業まで同一の教員が継続的に伴走する「全学的担任制度」を導入し、履修指導、学修進捗の把握、生活相談、および進路指導に至るまで、学生の特性に応じた個別最適な指導を定常的に実施している。この「顔の見える」支援体制により、学生の精神的・学術的な不安を早期に解消している。

・中退防止と学修定着に向けた組織的連携

担任が学生の微細な変化を早期に察知し、学習支援センター等と組織的に連携して補習や面談を行う体制を確立している。これにより、理工系教育において懸念される学修未定着や中途退学を未然に防ぎ、高い教育成果と卒業時における専門性の確保を実現している。

1-5) グループ高校2校を有する「高大接続」の強み

本学は2つのグループ高校を有しており、これは仙台圏の私立工業系大学と比較しても強固な学生確保の基盤および教育的メリットとなっている。

・教育の連続性

グループ高校との間で行われる高大連携教育（出前講義、施設利用等）を通じて、入学前から工学・情報・デザインへの興味・関心を醸成し、大学での学びにスムーズに移行できる体制を整えている。

・安定的な学生確保

本学にとって最大の学生供給源であるグループ高校との円滑な連携は、人口減少社会における安定的な入学者確保の基盤であり、新組織の運営における持続可能性を担保するものである。グループ高校からの内部進学者を対象とした「グループ高校内部進学特待生制度」を戦略的に運用し、法人一体となった内部進学促進施策を講じている。これにより、高大一貫教育のメリットを活かした早期の専門教育導入や、接続教育の深化を通じた教育研究力のさらなる向上を推進している。

1-6) キャリア形成と資格取得

・就職支援と資格取得支援

北東北3県の産業界との強固なネットワークを活かし、担任と就職担当部署が連携した個別指導を行う。仙台圏の大学が都市型産業を主な対象とする中、本学は「地域の守り手」

となる技術者を確実に輩出している。これまでも地域ニーズの高い国家資格（建築士、技術士補、電気主任技術者、情報処理技術者等）をはじめとして、各種専門分野に関連した取得をカリキュラム内で強力に支援している。

・教員養成を通じた地域教育基盤への貢献と地域定着の促進

本学は、高度な専門技術者の育成に留まらず、次世代の技術者育成を担う「中等教育における教育者（中学校・高等学校教諭）」の養成を教育の重要な柱の一つとして位置づけている。近隣広域圏の私立理工系大学においても教職課程は設置されているが、本学の特筆すべき点は、北東北における工学・情報教育の担い手不足という地域課題に対し、直接的な解決策を提示している点にある。本学で学んだ優秀な学生が教員として地域に戻り、次世代の生徒に工学・情報の魅力を伝えることで、本学への進学、さらには地域産業界への就職という「人材育成の循環構造」を構築する。これは、単なる資格取得に留まらない、地域定着の促進に向けた本学独自の戦略的取り組みである。

2) 競合校の入学志願動向等

【表 1-1】、【表 1-2】近隣の主要併願校である東北工業大学および東北学院大学の直近3カ年の志願動向を示す。

東北工業大学の「ライフデザイン学部」が恒常的に定員を大きく超過（約120%）している点は、受験生が単なる技術習得に留まらず、「生活に密着したデザイン」や「ユーザー視点のICT活用」といった、具体的かつ身近な目的意識を持って志願していることを示している。一方で、東北工業大学の工学部（分科型）が充足率を微減させているのに対し、総合大学である東北学院大学の工学部は105%前後で安定している。これは、受験生が専門特化型の伝統的な工学教育よりも、より広い視野や文理融合的な教育環境を求めている傾向の現れと言える。

特に顕著な例として、2023年度の東北学院大学・五橋キャンパス開学と同時に新設された「情報学部（データサイエンス学科）」が、初年度から極めて高い志願倍率を記録した点が挙げられる。これは、総合大学における情報教育への期待と、仙台市中心部という立地、そして「DX人材」への社会的ニーズが合致した結果と言える。

【表 1-1】 東北工業大学の過去3年間の入学志願状況

		令和5年度	令和6年度	令和7年度
工学部 入学定員 385名	志願者数	1,853名	1,697名	1,495名
	入学者数	375名	358名	355名
	入学定員充足率	97.4%	93.0%	92.2%
ライフデザイン学部 入学定員 240名	志願者数	993名	892名	859名
	入学者数	292名	281名	289名
	入学定員充足率	121.7%	117.1%	120.4%

【表 1—2】東北学院大学の過去 3 年間の入学志願状況

		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
工学部 入学定員 360 名	志願者数	1831 名	1971 名	1742 名
	入学者数	372 名	380 名	380 名
	入学定員充足率	103.3%	105.6%	105.6%
情報学部 入学定員 190 名	志願者数	1289 名	986 名	1052 名
	入学者数	213 名	193 名	201 名
	入学定員充足率	112.1%	101.6%	105.8%

3) 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

① 本学新設組織の優位性と充足の理由

既存校の充足率が停滞する中で、本学の新設組織が確実に入学者を確保できる理由は、以下の「組織の先鋭化」と「地域適合性」にある。

競合校である東北工業大学が情報を「工学部内の一課程」とし、東北学院大学が「データサイエンス学科」という特定手法に特化した教育体系を採るのに対し、本学は「総合情報学部」を独立組織として設置する。

本学部では「社会情報 DX」「メディアデザイン」「コンピューターサイエンス」「サイバーセキュリティ」の 4 プログラムを柱に、AI やネットワークインフラ、さらには「デザイン思考」までを網羅する包括的なカリキュラムを展開する。これにより、単なる技術習得に留まらず「DX による社会変革」を志向する層を明確にターゲット化できる。データ分析のみならず、システムの構築から社会実装に至る実務能力を志向する受験生にとって、本学は極めて有力な選択肢となる

② 「北東北 3 県」という戦略的募集エリアと経済的合理性

競合校が仙台圏を主戦場とする中、本学は北東北 3 県に深く根ざした募集戦略を展開する。

- ・**地域密着型教育**：地域のリアルなデータ（寒冷地、過疎、一次産業）を教育に用いることで、卒業後の地域貢献を志向する安定した志願者層（特に学校推薦型選抜層）を確保する。
- ・**経済的障壁の除去**：仙台圏への進学（下宿等を含む経費負担）が困難な層に対し、低廉な学納金と強力な特待生制度（評定 4.6 以上で授業料半額等）を提示する。これにより、経済的理由で進学を断念、あるいは分野を変えていた層を、本来の志望である理工系・情報系へと呼び戻す。

③ 結論（定員充足の蓋然性）

以上の分析の通り、競合他校における一部の組織的な充足率低下は、既存の工学枠組みに縛られた教育モデルの制度疲弊を示すものであり、情報分野そのものの需要減退ではない。むしろ、東北学院大学等の動向に見られるように、情報に特化した組織へのニーズは極めて旺盛である。

本学は、以下の3点を軸とした戦略的な組織再編により、競合校が踏み込めていない「情報の高度専門性と社会実装の空白地帯」を的確に射抜いている。

「総合情報学部」の独立化と先鋭化：情報の専門性を工学部の一分野から切り出し、独立した学部とすることで、DXやAIといった最先端領域へリソースを集中させる。これにより、従来の工学系志願者に加え、情報技術で社会課題を解決したい文理融合層や「理系女子（リケジョ）」などの新規ターゲットを確実に獲得する。

地域産業・独自領域との接続：「メディアデザイン」と「社会情報DX」の2プログラムにより、地方自治体や産業界が切望するデジタル変革の担い手を育成。北東北という立地特性を活かした「産業直結型教育」としての独自性を確立する。

強力な募集基盤と経済支援：強力な高大接続（グループ高校2校）による安定的な内部進学層に加え、地域企業50社以上の賛同を得た「指定校制女子特別枠」をはじめとする圧倒的な経済支援施策が、志願者の強力な下支えとなっている。

以上の「時代のニーズを捉えた学部組織の刷新」と「盤石な高大連携・経済施策」を組み合わせることで、「総合情報学部」を筆頭とする新設組織は、設置初年度より入学定員を確実に充足させることが可能であると判断する。

4) 学納金等の金額設定の理由

本学の新組織（3学部共通）の学納金設定の妥当性を検証するため、主な募集地域における競合校である東北工業大学（宮城県）および東北学院大学（宮城県）との比較を行う。比較項目は、入学金、授業料、維持費等を含む4年間の総額とする。新設組織の学納金等を【表2】に、競合校の学納金等を【表3-1】、【表3-2】、【表3-3】に示す。

【表2】新設組織の学費等：3学部共通（円）

学費項目	入学年次	2年次	3年次	4年次	4年間合計
入学金	250,000	—	—	—	250,000
授業料	980,000	980,000	980,000	980,000	3,920,000
維持費等	352,000	361,000	361,000	361,000	1,435,000
計	1,582,000	1,341,000	1,341,000	1,341,000	5,605,000

【表3-1】競合校の学費等：東北工業大学 工学部（全課程）・建築学部（建築学科）・ライフデザイン学部（産業デザイン学科）（円）

学費項目	入学年次	2年次	3年次	4年次	4年間合計
入学金	250,000	—	—	—	250,000
授業料	1,010,000	1,010,000	1,010,000	1,010,000	4,040,000
維持費等	340,000	340,000	340,000	340,000	1,360,000
計	1,600,000	1,350,000	1,350,000	1,350,000	5,650,000

【表 3-2】競合校の学費等：東北学院大学 工学部 (円)

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	270,000	—	—	—	270,000
授業料	1,098,000	1,098,000	1,098,000	1,098,000	4,392,000
維持費等	350,000	350,000	350,000	350,000	1,400,000
計	1,718,000	1,448,000	1,448,000	1,448,000	6,062,000

【表 3-3】競合校の学費等：東北学院大学 情報学部 (円)

学費項目	入学年次	2 年次	3 年次	4 年次	4 年間合計
入学金	270,000	—	—	—	270,000
授業料	894,000	894,000	894,000	894,000	3,576,000
維持費等	340,000	340,000	340,000	340,000	1,360,000
計	1,504,000	1,234,000	1,234,000	1,234,000	5,206,000

① 学納金設定の理由

本学の学納金設定にあたっては、以下の 3 点を基本方針としている。

・家計負担への配慮と修学機会の確保

本学の授業料は年額 980,000 円であり、比較校がいずれも 1,000,000 円を超える設定であるのに対し、抑制的な金額設定としている。これにより、経済的理由による進学断念を防ぎ、北東北を中心とする志願者に広く修学の機会を提供することを目指している。

・地域経済状況の反映（地域性の考慮）

本学の所在する青森県は、競合校の所在する宮城県（仙台圏）と比較して、物価水準および平均所得に差異がある。宮城県の私立理工系大学と同水準、あるいはそれ以下の学納金設定とすることで、地域社会の経済状況に適合した適正な負担額としている。

・教育組織の再編に伴う公平性の維持

今回の改組において、設置する 3 学部（総合情報学部、先進工学部、デザイン工学部）の学納金を同一金額に設定した。これにより、学生が経済的理由に左右されることなく、自身の適性や志向に基づいた学部選択を行える環境を整備している。

② 設定の妥当性

・経済的妥当性

4 年間の総額（5,605,000 円）において、東北工業大学工学部より 45,000 円低く、東北学院大学工学部と比較して 457,000 円低い設定となっている。

一方、東北学院大学情報学部（5,206,000 円）と比較すると本学の方が高くなるが、これは同大が「データサイエンス」という特定の分析手法に特化した一学科構成であるのに対し、本学はサイバーセキュリティやネットワークインフラ、実験実習を伴う「総合的な情報学」を網羅する組織構成であることに起因する。理工系・情報系教育に不可欠な設備投資と教育

品質を維持しつつ、広範な工学系・情報系学部の中では依然として競争力のある価格設定を維持しており、妥当性は極めて高い。

・地域社会への適合性

仙台圏の大学へ進学する場合、学納金に加えて下宿費用等の生活費負担が増大する傾向にある。東北学院大学情報学部の方が学納金単体では安価であっても、北東北からの進学を想定した総コストで見れば、地元で学べる本学の優位性は揺るぎない。これは地域の人材流出抑制と家計の教育費負担軽減の双方において合理的な意義を有している。

・教育品質の担保

維持費等を年額 35～36 万円程度確保することで、理工系教育に不可欠な最新の実験実習設備や情報インフラの更新・維持を継続的に行う体制を整えている。安価な設定に留まるだけでなく、教育の質を維持・向上させるための資源を適切に配分しており、設定金額と提供する教育サービスのバランスは適正である。

以上の通り、本学の学納金は、競合する近隣他大学の実績を精査し、地域経済の実態と学生の修学継続を最優先に考慮して設定されたものである。他大学と比較して競争力のある価格設定でありながら、教育環境の維持に必要な経費を確保しており、新組織の設置にあたって極めて妥当な金額設定であるといえる。

(3) 先行事例分析

該当なし

(4) 学生確保に関するアンケート調査

1) 調査の概要

本学では、令和 9（2027）年 4 月の設置・改組を構想している「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部」の 3 学部（各入学定員 100 名）について、その設置の妥当性と学生確保の見通しを検証するため、進学需要調査を実施した。調査は令和 7 年 10 月から令和 8 年 1 月にかけて、本学と接点を持つ東北 6 県の高等学校（各学部約 30 校）の第 1 学年および第 2 学年の生徒、延べ約 18,000 人を対象に、高等学校留め置き方式による無記名アンケートにて行った。

2) 進学需要分析

データサイエンスや AI への関心の高まりを反映し、1 年生の約 41%、2 年生の約 30%が関連分野に強い関心を示している。特に、私立志向かつ本学部を第一志望とし、「合格すれば必ず入学する」と回答した極めて確度の高い層は、2 年生で 107 名、1 年生で 105 名となり、開設時から定員 100 名を充足する十分な需要が確認された。

3) 総合評価と今後の学生確保見通し

調査結果を総括すると、総合学部の入学定員 100 名に対し、ターゲットとなる「確実な入学見込層」がいずれも 100 名を超えて存在している。この数値は、進学希望条件を厳格に絞り込んだ（私立容認・第一志望・専願志向）クロス集計に基づくものであり、募集計画の妥当性を極めて高く裏付けるものである。

東北地方の高校生は依然として高い国公立志向（約 8 割）を持つが、本調査では「新設学部への高い関心」と「第一志望層の確保」が明確に示された。今後は、これら確実な需要層を確実に合格へ導くとともに、国公立志向層に対しても本学独自の「地域共創教育」や「先端技術とデザインの融合」という付加価値を訴求することで、安定的な志願者確保に努める。

以上の通り、本学の総合情報部新設・改組計画は、進学需要の観点から見て、適正な規模と妥当性を備えたものである。

***添付データ：【資料 5】進学需要等に関するアンケート調査結果報告書**

(5) 人材需要に関するアンケート調査等

1) 調査の概要

本学では、令和 9（2027）年 4 月に開設・改組を予定している「総合情報学部」「先進工学部」「デザイン工学部」の 3 学部が養成する人材に対し、産業界からの実質的な需要を把握するため、人材需要調査を実施した。調査は令和 7 年 12 月から令和 8 年 1 月にかけて、本学の卒業生に対して求人・採用実績のある企業 317 社を対象にオンライン形式で行い、129 社から有効回答を得た（回答率 40.7%）。回答企業の所在地は青森県（46.5%）および東京都（24.8%）を中心に全国広域にわたっており、地方産業と都市部産業の両面から意見を収集した。

2) 総合情報学部の需要分析結果

人材需要調査（回答企業 129 社）において、DX 推進や IT 人材の不足を背景に、本学部の卒業生に対する採用意向は極めて旺盛である。

回答企業における具体的な採用見込みを「1 人」、「2 人」、「3 人以上」、「人数は未定」と回答した関連企業等は 110 件となっている。具体的な採用見込み人数は計 135 名（定員比約 1.4 倍）にのぼる。これは入学定員 100 名を優に超える人数であり、この強固な求人ニーズは、受験生や保護者に対する強力な動機付けとなり、他大学との併願時における本学の優位性を確立する決定的な要因となる。

また、今後の人材採用の見通しについて、回答企業の 75.2%が「増加すると思う」と回答しており、中長期的な視点においても卒業生の就職環境は極めて安定していると判断できる。本学はこれらの高い期待に応えるべく、地域社会および産業界を牽引できる高度な専門職業人の育成を確実に推進していく。

以上、本調査に基づき、総合情報学部の設置による人材養成は社会的要請に十分に応えるものであり、卒業後の進路確保の見通しについても極めて妥当であると結論付ける。

***添付データ：【資料 6】人材需要等に関するアンケート調査結果報告書**

4. 新設組織の定員設定の理由

(1) 既存組織における定員未充足の現状と分析

本学の既存組織（工学部：定員 250 名、感性デザイン学部：定員 50 名）における近年の定員未充足については、以下の 3 点が主な要因であると分析している。

・学問分野の固定化とミスマッチ

従来の伝統的な「工学」の枠組みが、急速に進展する DX（デジタルトランスフォーメーション）やグリーン社会への転換といった現代の受験生・産業界のニーズと乖離し、志願者の動機付けが弱まっていた。

・定員規模のミスマッチ

特に工学部の定員 250 名は、現在の東北地方における 18 歳人口の減少スピードに対し過大な規模となっており、教育リソースの集中投下が困難な状況にあった。

・学問的融合の不足:

工学とデザインが分離していたことで、現代社会に求められる「付加価値創造（デザイン）を伴う技術（工学）」という学びのパッケージを提供できていなかった。

(2) 改組による「定員充足」への戦略的転換

今回の改組は、単なる名称変更ではなく、上記分析に基づき、定員充足を確実にするための「構造改革」として実施する。

・「学部独立」と「定員 100 名」による専門性の可視化

既存組織を解体し、特に社会的ニーズの極めて高い情報分野を「総合情報学部（定員 100 名）」として独立させた。100 名という適正規模に再編することで、メディアデザインや社会情報 DX といった専門領域における「顔の見える教育」を徹底。これにより、受験生が自身の IT キャリアパスをより具体的にイメージできる体制を構築した。

・社会的要請に直結した「学部構成」への刷新

「情報学・AI」を筆頭に、「先進技術」「建築・デザイン」という人材需要調査に裏打ちされた 3 つの成長分野に特化。特に出口（就職）が極めて強い総合情報学部をフラッグシップに据えることで、就職不安を払拭し、一般選抜層や女子受験生を含む「強い志願動機」を創出する。

(3) 調査結果による裏付けと充足の見通し

今回の新設学部に対する進学需要調査（高校生約 18,000 人対象）では、既存学部では捉えきれていなかった「第一志望かつ専願志向」の層が、全学部とも定員 100 名を超える水準で抽出されている。

特に総合情報学部においては、情報系への関心が既存の工学的枠組みを大きく上回り、従来の工学部志望者とは異なる「IT・DX 志向の新たな受験生層」を広域から開拓できていることが数値で証明された。これは、独立した「情報学部」というブランドが、市場において強力な牽引力を持つことを裏付けている。

(4) 結論

本改組は、既存の定員未充足という課題を真摯に受け止め、社会的ニーズと進学需要のミスマッチを解消するために断行するものである。

特に総合情報学部における定員 100 名という設定は、産業界からの圧倒的な採用ニーズ（1.39 倍以上）および、進学需要調査における定員超の「専願志向層」の双方から算出され

た「確実に充足可能な適正規模」である。以上のことから、本計画における定員設定は極めて妥当であり、設置初年度からの継続的な定員充足は十分に可能であると判断する。

学生の確保の見通し等を記載した書類

資料目次

【資料 1】 18 歳人口予測	1
【資料 2】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況（別紙 1）	17
【資料 3】 既設学科等の収容定員の充足状況（別紙 2）	18
【資料 4】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）（別紙 2-1、2-2） . .	19
【資料 5】 高校生の入学意向調査結果報告書	21
【資料 6】 人材需要に関するアンケート調査票	42
【資料 7】 リーフレット	59

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 東北版

- 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県 -



【将来予測 2025～2037年】

▶18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2025年73,778人→2037年55,139人（18,639人減少）
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.7%減少）

【経過推移 2016～2025年】

▶進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2016年31,759人→2025年31,094人（665人減少）と、2.1%減少
- ・ 短期大学は、2016年4,361人→2025年2,402人（1,959人減少）と、44.9%減少
- ・ 専門学校は、2016年13,762人→2025年10,984人（2,778人減少）と、20.2%減少

進学率（現役）

- ・ 大学は、2016年39.1%→2025年47.5%（8.4ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2016年5.4%→2025年3.7%（1.7ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2016年16.9%→2025年16.8%（0.1ポイント低下）

▶地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2016年34.1%→2025年35.8%（1.7ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2016年66.4%→2025年69.1%（2.7ポイント上昇）

▶東北エリア概要（全体：県別） P14～P16

■分析・データについて

- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業生＋中等教育学校前期課程修了者＋義務教育学校卒業生＋特別支援学校（中学部）卒業生
 - ・ 中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者 全て含む
- ※2025年度学校基本調査より、特別支援学校の在籍者・卒業生数も対象に含めている。
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業生数とは、高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）。
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数。
- ⑥ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）で算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
- ⑧ 図表で利用している百分率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

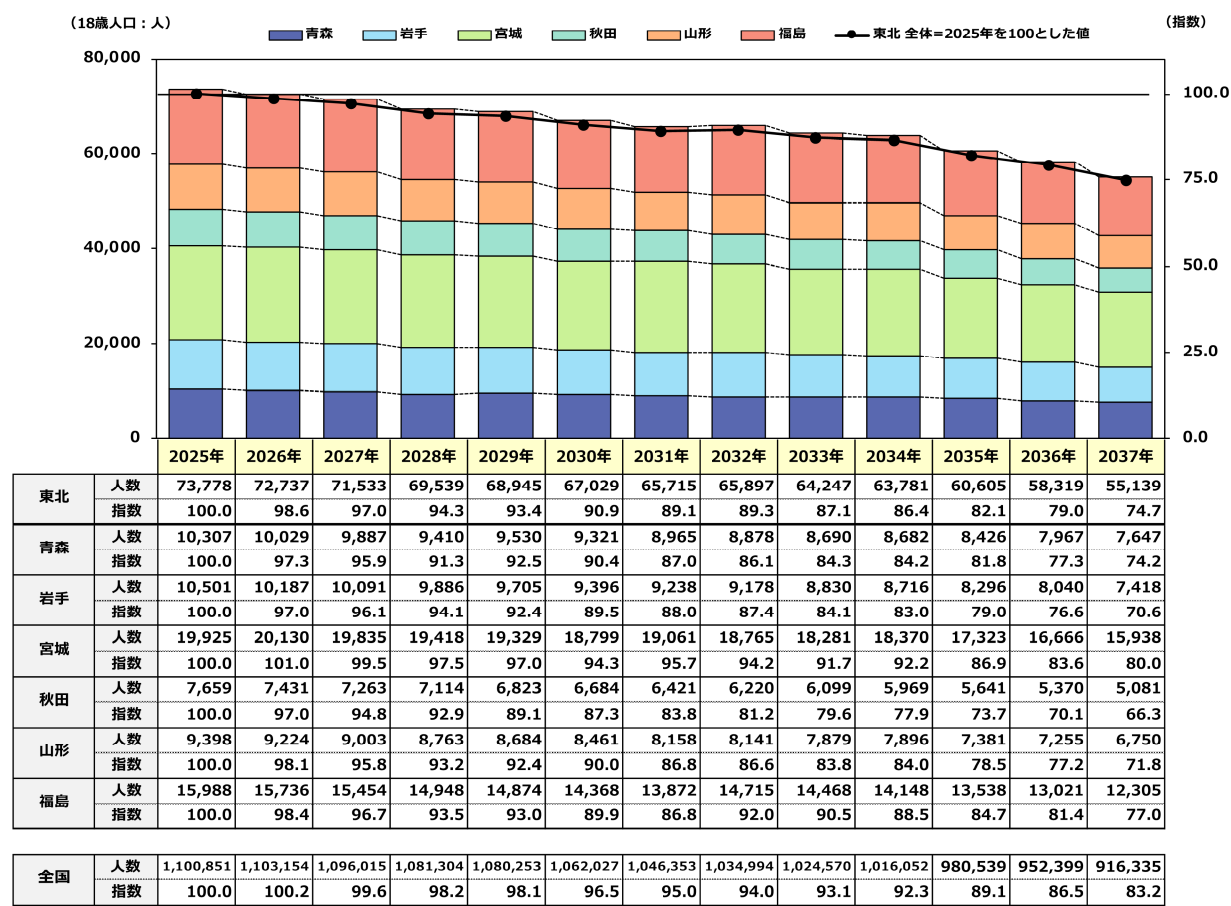
※専門学校＝専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<https://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：東北：2025～2037年）

■ 2025年73,778人→2037年55,139人（18,639人減少）

- ・ 東北エリアは18,639人・25.3%減少し、全国の減少率16.8%を8.5ポイント上回る。
- ・ 2026年以降減少し、2032年に微増するものの、2037年までに18,639人減少する。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.7%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、宮城県（2025年19,925人→2037年15,938人、3,987人減少）。

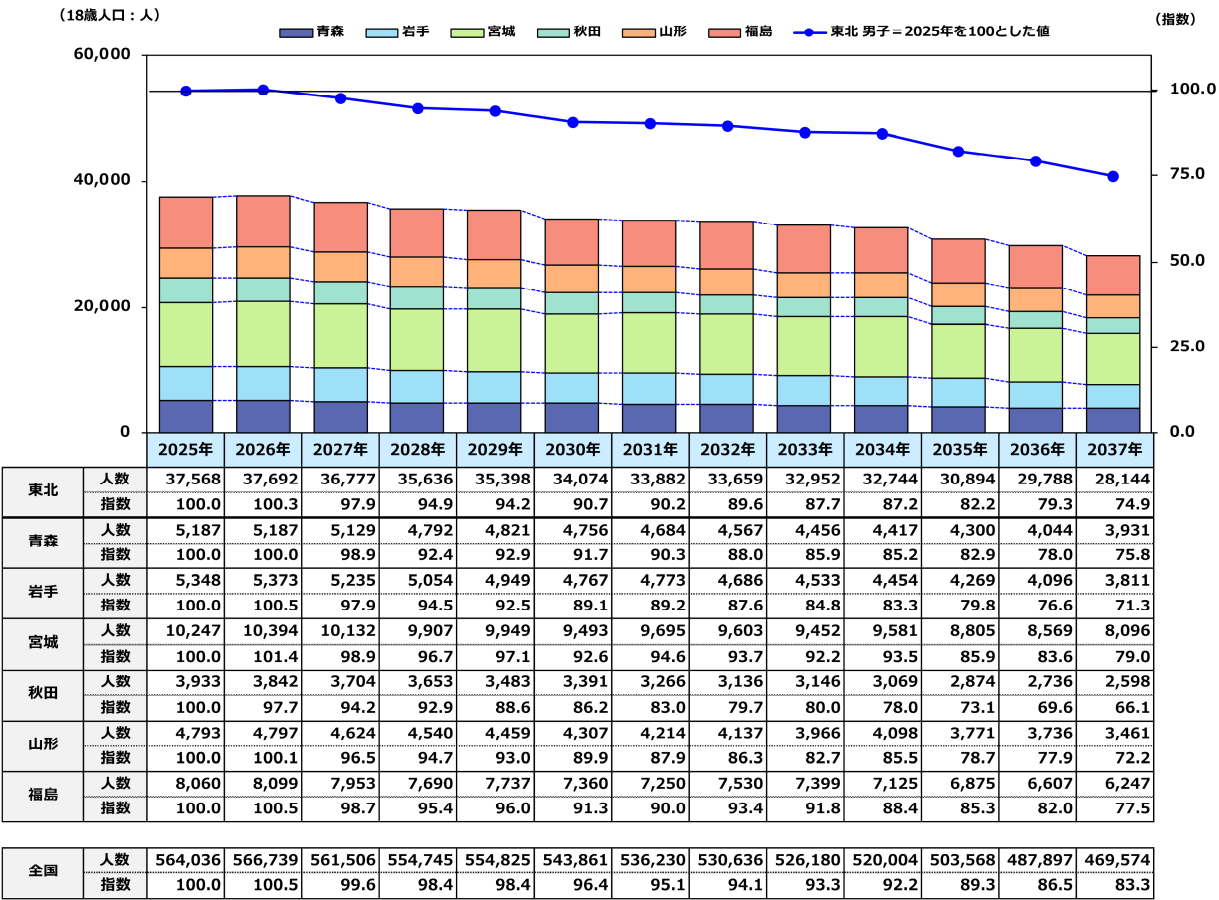


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：東北：2025～2037年）

■ 2025年37,568人→2037年28,144人（9,424人減少）

- ・ 男子は9,424人・25.1%減少し、全国の減少率16.7%を8.4ポイント上回る。
- ・ 2026年に124人微増し、2027年から減少に転じ、2030年から2032年はほぼ横ばいで推移し、翌2033年から減少傾向となる。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.9%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、宮城県（2025年10,247人→2037年8,096人、2,151人減少）。

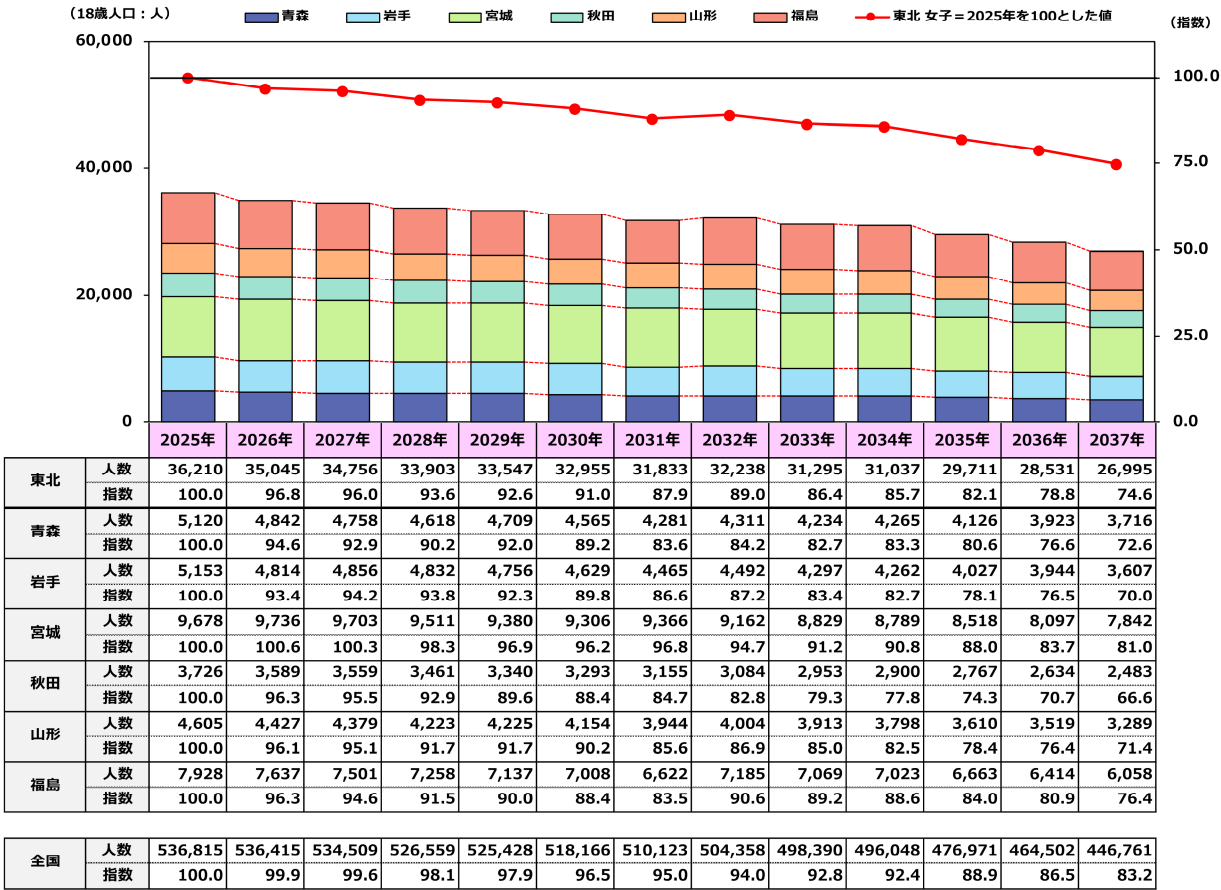


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：東北：2025～2037年）

■ 2025年36,210人→2037年26,995人（9,215人減少）

- ・ 女子は9,215人・25.4%減少し、全国の減少率16.8%を8.6ポイント上回る。
- ・ 2026年以降減少するが、2032年に405人増加。以降は減少傾向。
- ・ 減少率が高いのは、秋田県（2025年比較33.4%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、福島県（2025年7,928人→2037年6,058人、1,870人減少）。

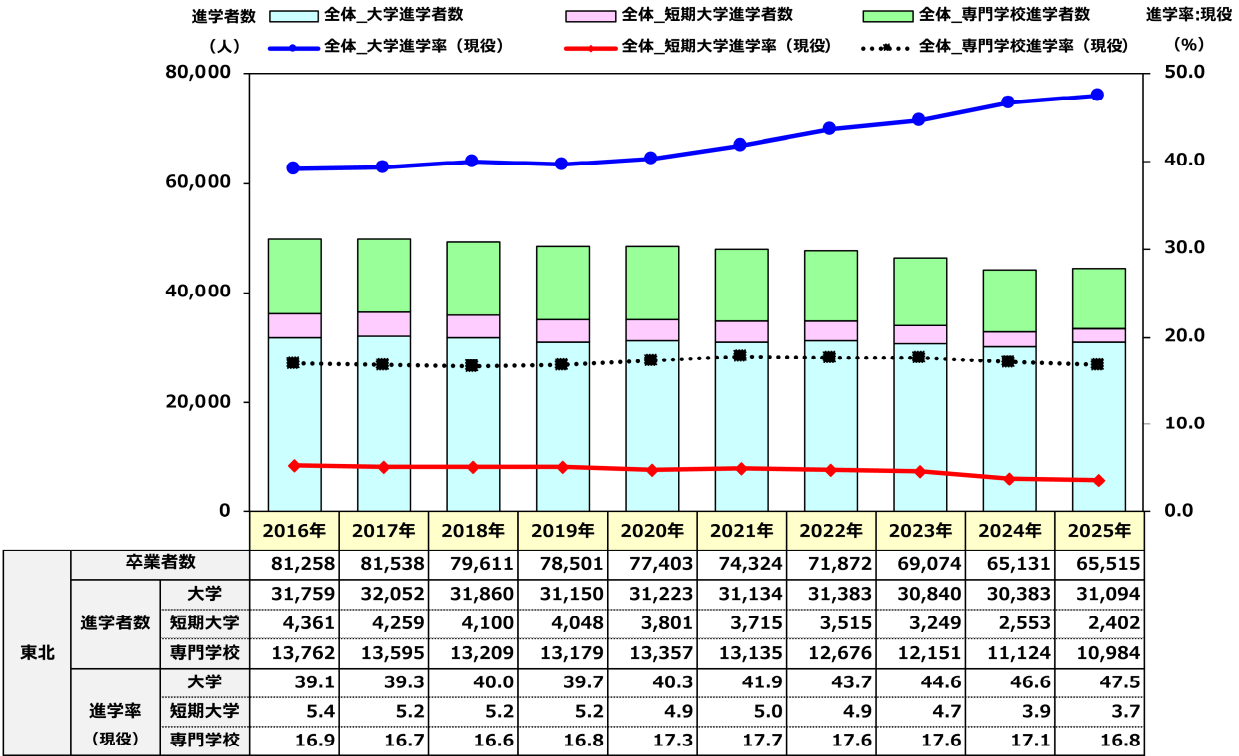


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：東北：2016～2025年）

■ 10年で大学進学率は8.4ポイント上昇しているが、進学者数は全校種で減少（合計5,402人減少）

- 進学者数**
- ・ 大学は、2016年31,759人→2025年31,094人（665人減少）と、2.1%減少。
 - ・ 短期大学は、2016年4,361人→2025年2,402人（1,959人減少）と、44.9%減少。
 - ・ 専門学校は、2016年13,762人→2025年10,984人（2,778人減少）と、20.2%減少。
- 進学率（現役）**
- ・ 大学は、2016年39.1%→2025年47.5（8.4ポイント上昇）。
 - ・ 短期大学は、2016年5.4%→2025年3.7%（1.7ポイント低下）。
 - ・ 専門学校は、2016年16.9%→2025年16.8%（0.1ポイント低下）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

- ・ 卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		12,481	12,386	11,973	11,710	11,573	11,056	10,597	10,048	9,227	9,179
	進学者数 （人）	大学	4,526	4,583	4,741	4,580	4,617	4,672	4,737	4,598	4,387	4,450
		短期大学	679	672	607	598	534	519	497	481	379	326
		専門学校	1,868	1,828	1,696	1,703	1,785	1,754	1,677	1,511	1,318	1,369
	進学率 （%）	大学	36.3	37.0	39.6	39.1	39.9	42.3	44.7	45.8	47.5	48.5
		短期大学	5.4	5.4	5.1	5.1	4.6	4.7	4.7	4.8	4.1	3.6
		専門学校	15.0	14.8	14.2	14.5	15.4	15.9	15.8	15.0	14.3	14.9
岩手	卒業生数（人）		11,652	11,837	11,415	11,438	11,166	10,585	10,268	9,804	9,263	9,386
	進学者数 （人）	大学	4,267	4,375	4,320	4,244	4,284	4,138	4,085	4,064	4,070	4,174
		短期大学	658	565	549	541	532	469	491	402	343	333
		専門学校	2,166	2,013	2,251	2,203	2,163	2,021	2,155	1,856	1,656	1,744
	進学率 （%）	大学	36.6	37.0	37.8	37.1	38.4	39.1	39.8	41.5	43.9	44.5
		短期大学	5.6	4.8	4.8	4.7	4.8	4.4	4.8	4.1	3.7	3.5
		専門学校	18.6	17.0	19.7	19.3	19.4	19.1	21.0	18.9	17.9	18.6
宮城	卒業生数（人）		20,204	20,421	20,322	20,065	19,843	19,412	19,033	18,286	17,349	17,568
	進学者数 （人）	大学	9,005	9,027	8,943	8,851	8,811	8,871	9,194	9,057	8,855	9,158
		短期大学	756	801	851	849	846	921	788	777	545	544
		専門学校	3,029	3,134	3,224	3,332	3,454	3,396	3,228	3,135	3,006	2,778
	進学率 （%）	大学	44.6	44.2	44.0	44.1	44.4	45.7	48.3	49.5	51.0	52.1
		短期大学	3.7	3.9	4.2	4.2	4.3	4.7	4.1	4.2	3.1	3.1
		専門学校	15.0	15.3	15.9	16.6	17.4	17.5	17.0	17.1	17.3	15.8
秋田	卒業生数（人）		8,881	8,742	8,503	8,124	8,029	7,586	7,255	7,169	6,730	6,824
	進学者数 （人）	大学	3,246	3,244	3,231	3,064	3,039	3,064	2,924	2,906	2,903	2,911
		短期大学	620	601	522	530	455	475	466	409	326	318
		専門学校	1,571	1,446	1,408	1,359	1,372	1,349	1,217	1,306	1,174	1,187
	進学率 （%）	大学	36.5	37.1	38.0	37.7	37.9	40.4	40.3	40.5	43.1	42.7
		短期大学	7.0	6.9	6.1	6.5	5.7	6.3	6.4	5.7	4.8	4.7
		専門学校	17.7	16.5	16.6	16.7	17.1	17.8	16.8	18.2	17.4	17.4
山形	卒業生数（人）		10,398	10,248	10,108	10,005	9,995	9,555	9,169	8,948	8,385	8,556
	進学者数 （人）	大学	3,865	3,878	3,865	3,736	3,912	3,821	3,924	3,781	3,812	3,882
		短期大学	640	628	572	590	540	474	462	435	324	316
		専門学校	1,910	1,859	1,730	1,824	1,872	1,858	1,726	1,784	1,648	1,631
	進学率 （%）	大学	37.2	37.8	38.2	37.3	39.1	40.0	42.8	42.3	45.5	45.4
		短期大学	6.2	6.1	5.7	5.9	5.4	5.0	5.0	4.9	3.9	3.7
		専門学校	18.4	18.1	17.1	18.2	18.7	19.4	18.8	19.9	19.7	19.1
福島	卒業生数（人）		17,642	17,904	17,290	17,159	16,797	16,130	15,550	14,819	14,177	14,002
	進学者数 （人）	大学	6,850	6,945	6,760	6,675	6,560	6,568	6,519	6,434	6,356	6,519
		短期大学	1,008	992	999	940	894	857	811	745	636	565
		専門学校	3,218	3,315	2,900	2,758	2,711	2,757	2,673	2,559	2,322	2,275
	進学率 （%）	大学	38.8	38.8	39.1	38.9	39.1	40.7	41.9	43.4	44.8	46.6
		短期大学	5.7	5.5	5.8	5.5	5.3	5.3	5.2	5.0	4.5	4.0
		専門学校	18.2	18.5	16.8	16.1	16.1	17.1	17.2	17.3	16.4	16.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：東北：2016～2025年）

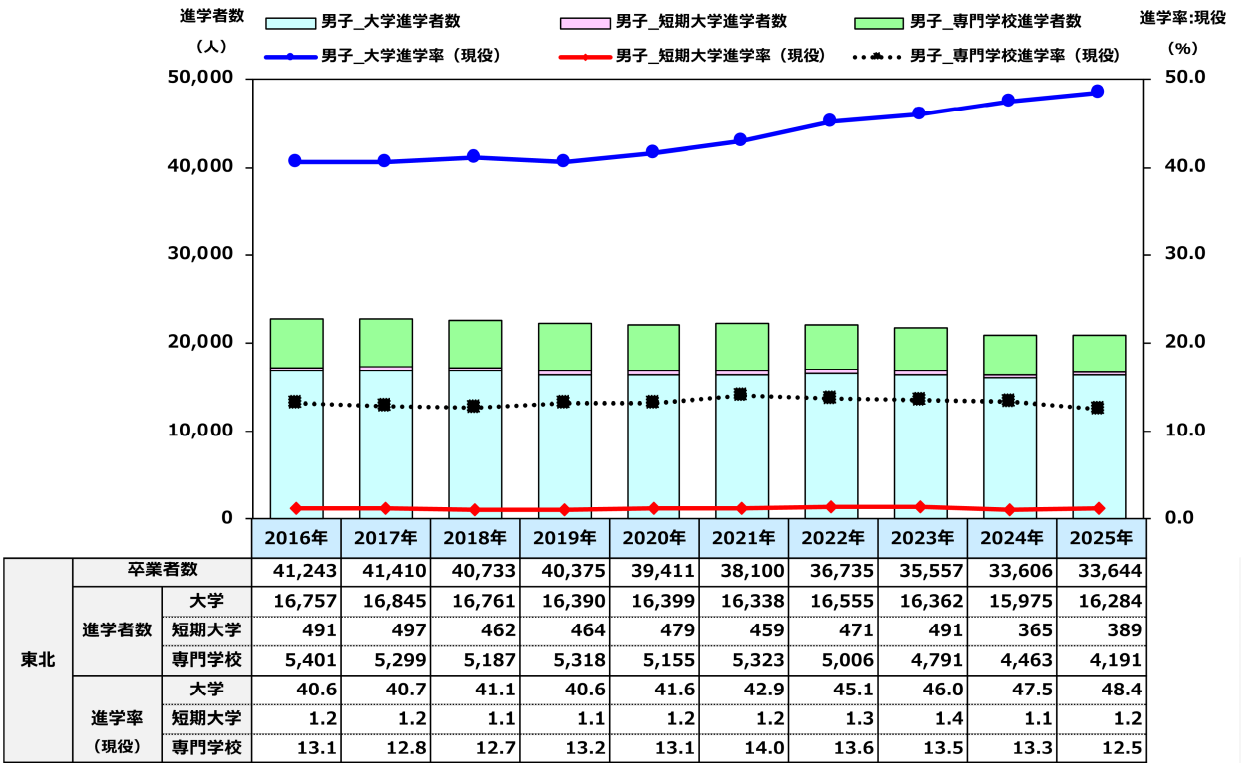
■男子では、大学進学率は7.8ポイント上昇、短期大学進学率は変動なし、専門学校進学率は0.6ポイント低下。進学者数は全校種で減少している（合計1,785人減少）

進学者数

- ・大学は、2016年16,757人→2025年16,284人（473人減少）と、2.8%減少。
- ・短期大学は、2016年491人→2025年389人（102人減少）と、20.8%減少。
- ・専門学校は、2016年5,401人→2025年4,191人（1,210人減少）と、22.4%減少。

進学率（現役）

- ・大学は、2016年40.6%→2025年48.4%（7.8ポイント上昇）。
- ・短期大学は、2016年1.2%→2025年1.2%（変動なし）。
- ・専門学校は、2016年13.1%→2025年12.5%（0.6ポイント低下）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業者数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		6,344	6,237	6,117	5,993	5,975	5,763	5,434	5,181	4,763	4,679
	進学者数 （人）	大学	2,356	2,376	2,481	2,430	2,469	2,464	2,484	2,431	2,305	2,308
		短期大学	69	73	79	81	77	75	85	89	62	67
		専門学校	683	665	621	626	659	671	609	553	517	485
	進学率 （％）	大学	37.1	38.1	40.6	40.5	41.3	42.8	45.7	46.9	48.4	49.3
		短期大学	1.1	1.2	1.3	1.4	1.3	1.3	1.6	1.7	1.3	1.4
		専門学校	10.8	10.7	10.2	10.4	11.0	11.6	11.2	10.7	10.9	10.4
岩手	卒業生数（人）		5,951	6,071	5,860	5,960	5,678	5,413	5,360	5,008	4,741	4,825
	進学者数 （人）	大学	2,230	2,248	2,229	2,198	2,213	2,123	2,138	2,054	2,047	2,131
		短期大学	131	99	99	89	108	97	102	106	74	86
		専門学校	949	832	942	933	841	804	903	741	653	681
	進学率 （％）	大学	37.5	37.0	38.0	36.9	39.0	39.2	39.9	41.0	43.2	44.2
		短期大学	2.2	1.6	1.7	1.5	1.9	1.8	1.9	2.1	1.6	1.8
		専門学校	15.9	13.7	16.1	15.7	14.8	14.9	16.8	14.8	13.8	14.1
宮城	卒業生数（人）		10,210	10,336	10,372	10,169	10,082	9,921	9,686	9,382	8,861	9,061
	進学者数 （人）	大学	4,708	4,722	4,693	4,613	4,646	4,719	4,887	4,872	4,610	4,786
		短期大学	78	110	78	84	99	97	84	129	89	102
		専門学校	1,153	1,233	1,280	1,330	1,334	1,411	1,247	1,204	1,196	1,052
	進学率 （％）	大学	46.1	45.7	45.2	45.4	46.1	47.6	50.5	51.9	52.0	52.8
		短期大学	0.8	1.1	0.8	0.8	1.0	1.0	0.9	1.4	1.0	1.1
		専門学校	11.3	11.9	12.3	13.1	13.2	14.2	12.9	12.8	13.5	11.6
秋田	卒業生数（人）		4,437	4,416	4,351	4,177	4,045	3,841	3,703	3,705	3,454	3,505
	進学者数 （人）	大学	1,719	1,711	1,675	1,580	1,550	1,586	1,543	1,552	1,506	1,511
		短期大学	67	71	70	70	63	60	63	58	42	46
		専門学校	584	529	518	536	545	515	457	495	445	445
	進学率 （％）	大学	38.7	38.7	38.5	37.8	38.3	41.3	41.7	41.9	43.6	43.1
		短期大学	1.5	1.6	1.6	1.7	1.6	1.6	1.7	1.6	1.2	1.3
		専門学校	13.2	12.0	11.9	12.8	13.5	13.4	12.3	13.4	12.9	12.7
山形	卒業生数（人）		5,328	5,218	5,181	5,129	5,081	4,926	4,661	4,636	4,362	4,404
	進学者数 （人）	大学	2,041	2,064	2,017	1,956	2,067	1,995	2,040	2,011	2,030	2,063
		短期大学	66	85	56	73	62	46	62	54	55	37
		専門学校	766	695	690	705	669	750	695	736	672	635
	進学率 （％）	大学	38.3	39.6	38.9	38.1	40.7	40.5	43.8	43.4	46.5	46.8
		短期大学	1.2	1.6	1.1	1.4	1.2	0.9	1.3	1.2	1.3	0.8
		専門学校	14.4	13.3	13.3	13.7	13.2	15.2	14.9	15.9	15.4	14.4
福島	卒業生数（人）		8,973	9,132	8,852	8,947	8,550	8,236	7,891	7,645	7,425	7,170
	進学者数 （人）	大学	3,703	3,724	3,666	3,613	3,454	3,451	3,463	3,442	3,477	3,485
		短期大学	80	59	80	67	70	84	75	55	43	51
		専門学校	1,266	1,345	1,136	1,188	1,107	1,172	1,095	1,062	980	893
	進学率 （％）	大学	41.3	40.8	41.4	40.4	40.4	41.9	43.9	45.0	46.8	48.6
		短期大学	0.9	0.6	0.9	0.7	0.8	1.0	1.0	0.7	0.6	0.7
		専門学校	14.1	14.7	12.8	13.3	12.9	14.2	13.9	13.9	13.2	12.5

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：東北：2016～2025年）

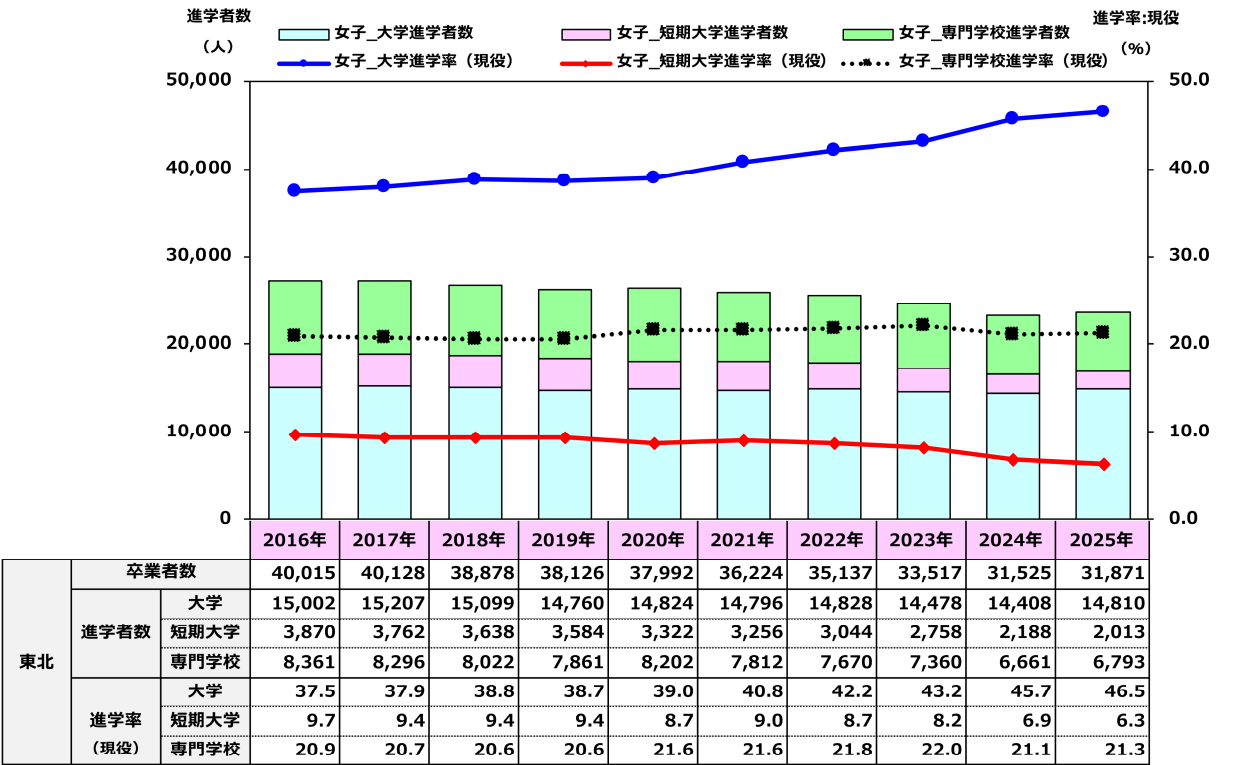
■女子では、大学進学率は9.0ポイント上昇、短期大学進学率は3.4ポイント低下、専門学校進学率は0.4ポイント上昇。進学者数は全校種で減少している（合計3,617人減少）

進学者数

- ・大学は、2016年15,002人→2025年14,810人（192人減少）と、1.3%減少。
- ・短期大学は、2016年3,870人→2025年2,013人（1,857人減少）と、48.0%減少。
- ・専門学校は、2016年8,361人→2025年6,793人（1,568人減少）と、18.8%減少。

進学率（現役）

- ・大学は、2016年37.5%→2025年46.5%（9.0ポイント上昇）。
- ・短期大学は、2016年9.7%→2025年6.3%（3.4ポイント低下）。
- ・専門学校は、2016年20.9%→2025年21.3%（0.4ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料1】

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2016～2025年）

			2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
青森	卒業生数（人）		6,137	6,149	5,856	5,717	5,598	5,293	5,163	4,867	4,464	4,500
	進学者数 （人）	大学	2,170	2,207	2,260	2,150	2,148	2,208	2,253	2,167	2,082	2,142
		短期大学	610	599	528	517	457	444	412	392	317	259
		専門学校	1,185	1,163	1,075	1,077	1,126	1,083	1,068	958	801	884
	進学率 （％）	大学	35.4	35.9	38.6	37.6	38.4	41.7	43.6	44.5	46.6	47.6
		短期大学	9.9	9.7	9.0	9.0	8.2	8.4	8.0	8.1	7.1	5.8
		専門学校	19.3	18.9	18.4	18.8	20.1	20.5	20.7	19.7	17.9	19.6
岩手	卒業生数（人）		5,701	5,766	5,555	5,478	5,488	5,172	4,908	4,796	4,522	4,561
	進学者数 （人）	大学	2,037	2,127	2,091	2,046	2,071	2,015	1,947	2,010	2,023	2,043
		短期大学	527	466	450	452	424	372	389	296	269	247
		専門学校	1,217	1,181	1,309	1,270	1,322	1,217	1,252	1,115	1,003	1,063
	進学率 （％）	大学	35.7	36.9	37.6	37.3	37.7	39.0	39.7	41.9	44.7	44.8
		短期大学	9.2	8.1	8.1	8.3	7.7	7.2	7.9	6.2	5.9	5.4
		専門学校	21.3	20.5	23.6	23.2	24.1	23.5	25.5	23.2	22.2	23.3
宮城	卒業生数（人）		9,994	10,085	9,950	9,896	9,761	9,491	9,347	8,904	8,488	8,507
	進学者数 （人）	大学	4,297	4,305	4,250	4,238	4,165	4,152	4,307	4,185	4,245	4,372
		短期大学	678	691	773	765	747	824	704	648	456	442
		専門学校	1,876	1,901	1,944	2,002	2,120	1,985	1,981	1,931	1,810	1,726
	進学率 （％）	大学	43.0	42.7	42.7	42.8	42.7	43.7	46.1	47.0	50.0	51.4
		短期大学	6.8	6.9	7.8	7.7	7.7	8.7	7.5	7.3	5.4	5.2
		専門学校	18.8	18.8	19.5	20.2	21.7	20.9	21.2	21.7	21.3	20.3
秋田	卒業生数（人）		4,444	4,326	4,152	3,947	3,984	3,745	3,552	3,464	3,276	3,319
	進学者数 （人）	大学	1,527	1,533	1,556	1,484	1,489	1,478	1,381	1,354	1,397	1,400
		短期大学	553	530	452	460	392	415	403	351	284	272
		専門学校	987	917	890	823	827	834	760	811	729	742
	進学率 （％）	大学	34.4	35.4	37.5	37.6	37.4	39.5	38.9	39.1	42.6	42.2
		短期大学	12.4	12.3	10.9	11.7	9.8	11.1	11.3	10.1	8.7	8.2
		専門学校	22.2	21.2	21.4	20.9	20.8	22.3	21.4	23.4	22.3	22.4
山形	卒業生数（人）		5,070	5,030	4,927	4,876	4,914	4,629	4,508	4,312	4,023	4,152
	進学者数 （人）	大学	1,824	1,814	1,848	1,780	1,845	1,826	1,884	1,770	1,782	1,819
		短期大学	574	543	516	517	478	428	400	381	269	279
		専門学校	1,144	1,164	1,040	1,119	1,203	1,108	1,031	1,048	976	996
	進学率 （％）	大学	36.0	36.1	37.5	36.5	37.5	39.4	41.8	41.0	44.3	43.8
		短期大学	11.3	10.8	10.5	10.6	9.7	9.2	8.9	8.8	6.7	6.7
		専門学校	22.6	23.1	21.1	22.9	24.5	23.9	22.9	24.3	24.3	24.0
福島	卒業生数（人）		8,669	8,772	8,438	8,212	8,247	7,894	7,659	7,174	6,752	6,832
	進学者数 （人）	大学	3,147	3,221	3,094	3,062	3,106	3,117	3,056	2,992	2,879	3,034
		短期大学	928	933	919	873	824	773	736	690	593	514
		専門学校	1,952	1,970	1,764	1,570	1,604	1,585	1,578	1,497	1,342	1,382
	進学率 （％）	大学	36.3	36.7	36.7	37.3	37.7	39.5	39.9	41.7	42.6	44.4
		短期大学	10.7	10.6	10.9	10.6	10.0	9.8	9.6	9.6	8.8	7.5
		専門学校	22.5	22.5	20.9	19.1	19.4	20.1	20.6	20.9	19.9	20.2

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

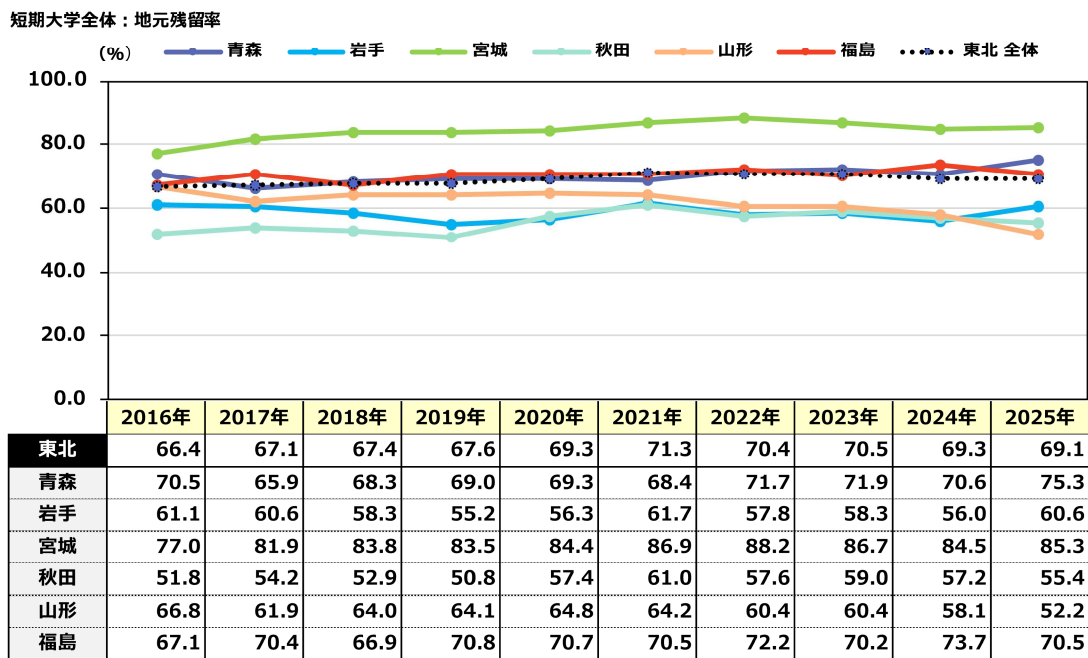
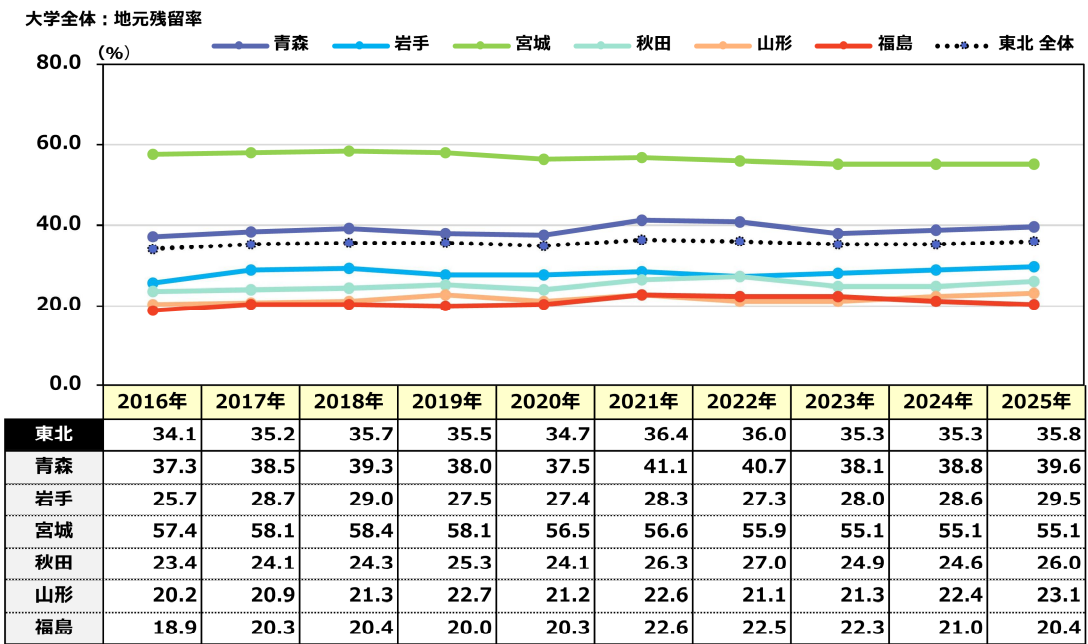
・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）

※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移（全体：東北：2016～2025年）

■ 大学は、2016年34.1%→2025年35.8%（1.7ポイント上昇）
短期大学は、2016年66.4%→2025年69.1%（2.7ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年25.7%→2025年29.5%、3.8ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2016年77.0%→2025年85.3%、8.3ポイント上昇）。

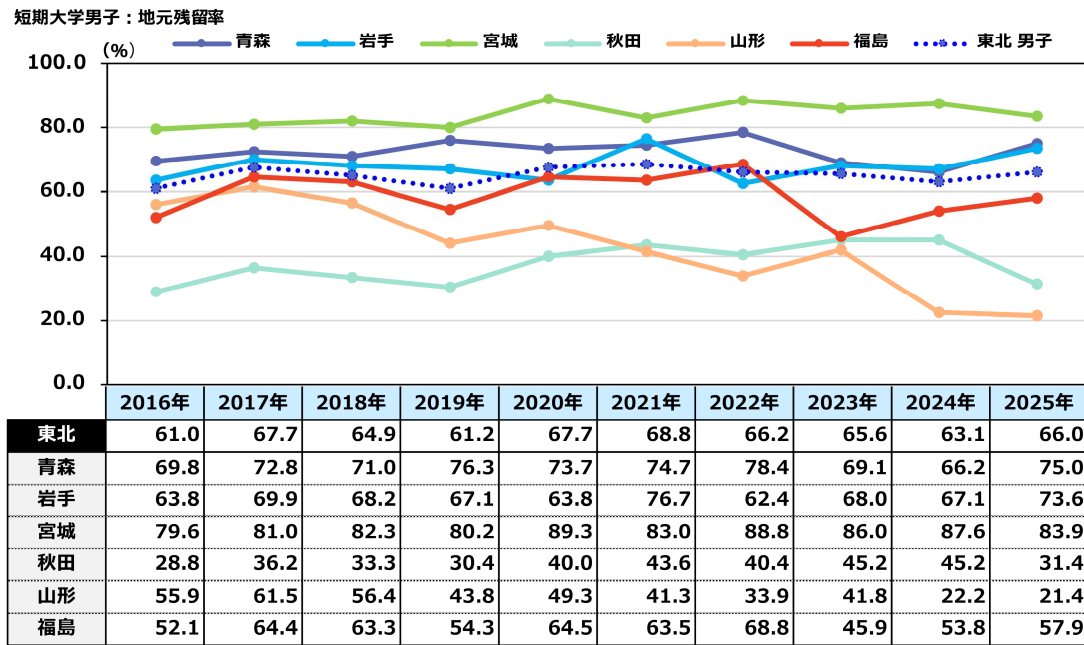
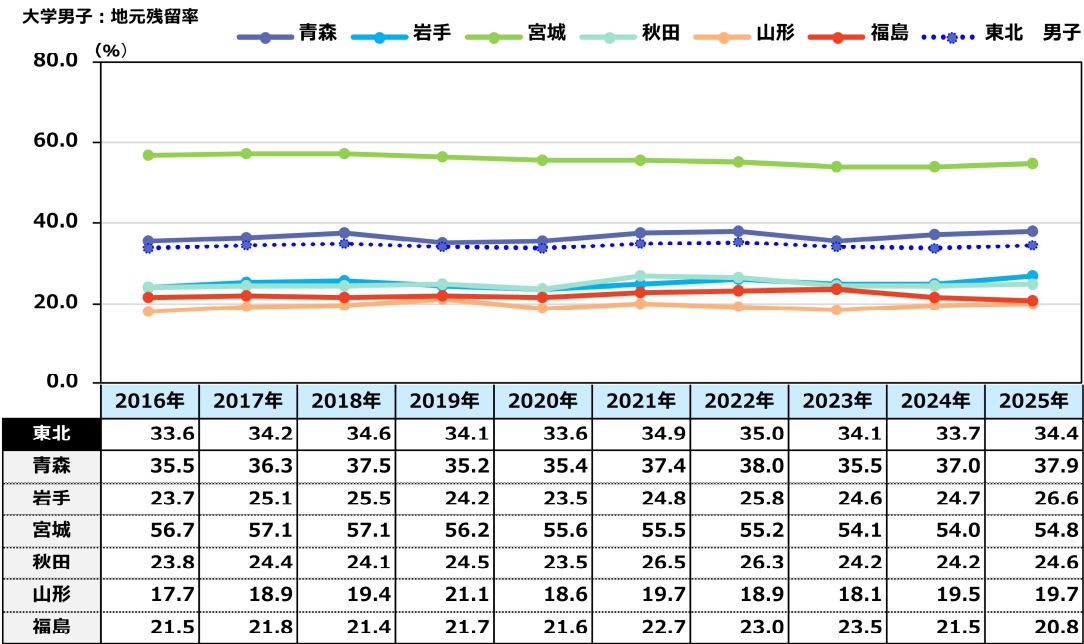


※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（男子：東北：2016～2025年）

■大学は、2016年33.6%→2025年34.4%（0.8ポイント上昇）
短期大学は、2016年61.0%→2025年66.0%（5.0ポイント上昇）

- ・大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年23.7%→2025年26.6%、2.9ポイント上昇）。
- ・短期大学で上昇率が高いのも、岩手県（2016年63.8%→2025年73.6%、9.8ポイント上昇）。

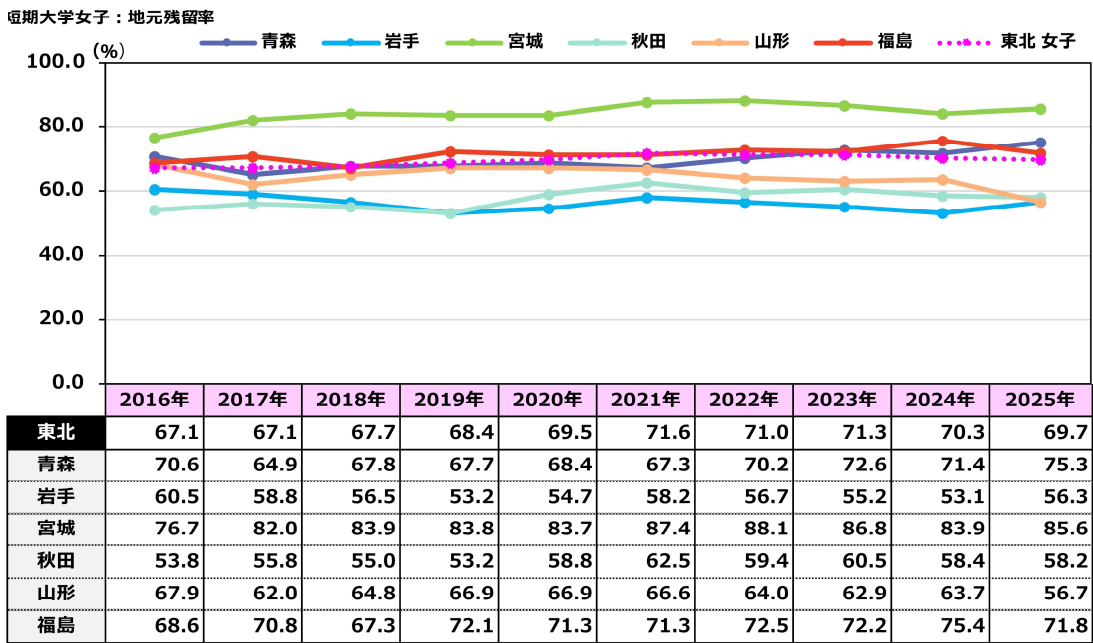
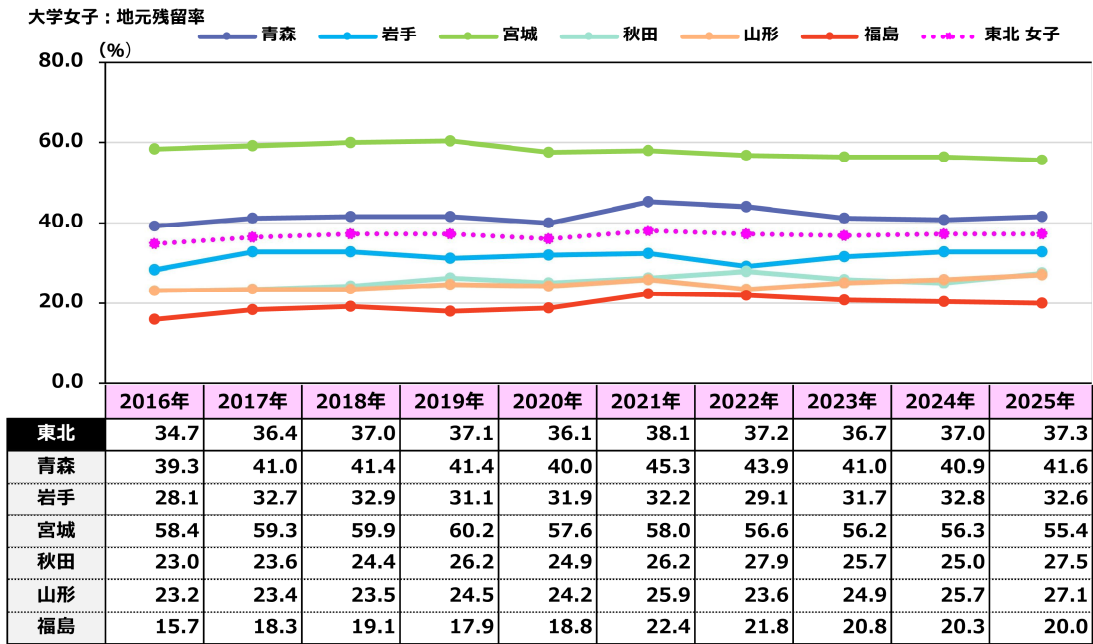


※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（女子：東北：2016～2025年）

■ 大学は、2016年34.7%→2025年37.3%（2.6ポイント上昇）
短期大学は、2016年67.1%→2025年69.7%（2.6ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、岩手県（2016年28.1%→2025年32.6%、4.5ポイント上昇）、秋田県（2016年23.0%→2025年27.5%、4.5ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、宮城県（2016年76.7%→2025年85.6%、8.9ポイント上昇）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

東北エリア概要（全体：県別）

青森県



学校数

大学 : 10 (国立 1・公立 2・私立 7)
短期大学 : 5 (私立 5)
専門学校 : 22 (公立 4・私立 18)

卒業者数

2016年12,481人→2025年9,179人 (3,302人減少)

進学者数

大学 : 2016年4,526人→2025年4,450人 (76人減少)
短期大学 : 2016年 679人→2025年 326人 (353人減少)
専門学校 : 2016年1,868人→2025年1,369人 (499人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.3%→2025年48.5% (12.2ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 5.4%→2025年 3.6% (1.8ポイント低下)
専門学校 : 2016年15.0%→2025年14.9% (0.1ポイント低下)

残留率

大学 : 2016年37.3%→2025年39.6% (2.3ポイント上昇)
短期大学 : 2016年70.5%→2025年75.3% (4.8ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位北海道 (424人)、2位岩手 (249人)、3位秋田 (185人)
短期大学 : 1位秋田 (19人)、2位岩手 (18人)、3位宮城 (2人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (590人)、2位宮城 (570人)、3位北海道 (317人)
短期大学 : 1位宮城 (33人)、2位山形 (11人)、3位東京 (9人)

学校数

大学 : 6 (国立 1・公立 1・私立 4)
短期大学 : 4 (公立 2・私立 2)
専門学校 : 31 (公立 4・私立 27)

卒業者数

2016年11,652人→2025年9,386人 (2,266人減少)

進学者数

大学 : 2016年4,267人→2025年4,174人 (93人減少)
短期大学 : 2016年 658人→2025年 333人 (325人減少)
専門学校 : 2016年2,166人→2025年1,744人 (422人減少)

進学率（現役）

大学 : 2016年36.6%→2025年44.5% (7.9ポイント上昇)
短期大学 : 2016年 5.6%→2025年 3.5% (2.1ポイント低下)
専門学校 : 2016年18.6%→2025年18.6% (変動なし)

残留率

大学 : 2016年25.7%→2025年29.5% (3.8ポイント上昇)
短期大学 : 2016年61.1%→2025年60.6% (0.5ポイント低下)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位青森 (221人)、2位宮城 (220人)、3位秋田 (126人)
短期大学 : 1位秋田 (17人)、2位宮城 (11人)、3位青森 (7人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位宮城 (847人)、2位東京 (519人)、3位青森 (249人)
短期大学 : 1位宮城 (60人)、2位青森 (18人)、3位東京 (16人)

岩手県



- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
- ・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
- ・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
- ・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
- ・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学者したこと（浪人含）
- ・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学者のこと（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

宮城県



学校数	
大学	: 15（国立 2・公立 1・私立 12）
短期大学	: 5（私立 5）
専門学校	: 60（公立 2・私立 58）
卒業者数	
2016年20,204人→2025年17,568人（2,636人減少）	
進学者数	
大学	: 2016年9,005人→2025年9,158人（153人増加）
短期大学	: 2016年 756人→2025年 544人（212人減少）
専門学校	: 2016年3,029人→2025年2,778人（251人減少）
進学率（現役）	
大学	: 2016年44.6%→2025年52.1%（7.5ポイント上昇）
短期大学	: 2016年 3.7%→2025年 3.1%（0.6ポイント低下）
専門学校	: 2016年15.0%→2025年15.8%（0.8ポイント上昇）
残留率	
大学	: 2016年57.4%→2025年55.1%（2.3ポイント低下）
短期大学	: 2016年77.0%→2025年85.3%（8.3ポイント上昇）
入学者流入元 ※地元は除く	
大学	: 1位福島（994人）、2位岩手（847人）、3位山形（785人）
短期大学	: 1位山形（ 91人）、2位福島（ 68人）、3位岩手（ 60人）
入学者流出先 ※地元は除く	
大学	: 1位東京（1,284人）、2位山形（665人）、3位神奈川（400人）
短期大学	: 1位東京（ 22人）、2位山形（ 13人）、3位岩手（ 11人）

秋田県



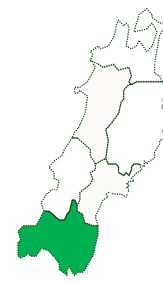
学校数	
大学	: 7（国立 1・公立 3・私立 3）
短期大学	: 4（私立 4）
専門学校	: 13（公立 1・私立 12）
卒業者数	
2016年8,881人→2025年6,824人（2,057人減少）	
進学者数	
大学	: 2016年3,246人→2025年2,911人（335人減少）
短期大学	: 2016年 620人→2025年 318人（302人減少）
専門学校	: 2016年1,571人→2025年1,187人（384人減少）
進学率（現役）	
大学	: 2016年36.5%→2025年42.7%（6.2ポイント上昇）
短期大学	: 2016年 7.0%→2025年 4.7%（2.3ポイント低下）
専門学校	: 2016年17.7%→2025年17.4%（0.3ポイント低下）
残留率	
大学	: 2016年23.4%→2025年26.0%（2.6ポイント上昇）
短期大学	: 2016年51.8%→2025年55.4%（3.6ポイント上昇）
入学者流入元 ※地元は除く	
大学	: 1位岩手（105人）、2位宮城（100人）、3位東京（82人）
短期大学	: 1位北海道（3人）、3位山形・東京（2人）
入学者流出先 ※地元は除く	
大学	: 1位宮城（496人）、2位東京（383人）、3位青森（185人）
短期大学	: 1位宮城（ 43人）、2位山形（ 26人）、3位青森（ 19人）

・学校数	: 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
・卒業者数	: 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
・進学者数	: 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役）	: 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・残留率	: 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入	: 自県内（地元）の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学者の割合（浪人含）
・流出	: 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学者の割合（浪人含）

※専門学校＝専修学校専門課程

東北エリア概要（全体：県別）

	山形県	学校数 大学 : 8 (国立 1・公立 3・私立 4) 短期大学 : 3 (公立 1・私立 2) 専門学校 : 18 (公立 4・私立 14)
		卒業者数 2016年10,398人→2025年8,556人 (1,842人減少)
		進学者数 大学 : 2016年3,865人→2025年3,882人 (17人増加) 短期大学 : 2016年 640人→2025年 316人 (324人減少) 専門学校 : 2016年1,910人→2025年1,631人 (279人減少)
		進学率（現役） 大学 : 2016年37.2%→2025年45.4% (8.2ポイント上昇) 短期大学 : 2016年 6.2%→2025年 3.7% (2.5ポイント低下) 専門学校 : 2016年18.4%→2025年19.1% (0.7ポイント上昇)
		残留率 大学 : 2016年20.2%→2025年23.1% (2.9ポイント上昇) 短期大学 : 2016年66.8%→2025年52.2% (14.6ポイント低下)
		入学者流入元 ※地元は除く 大学 : 1位宮城 (665人)、2位福島 (201人)、3位岩手 (144人) 短期大学 : 1位福島 (29人)、2位秋田 (26人)、3位新潟 (15人)
		入学者流出先 ※地元は除く 大学 : 1位宮城 (785人)、2位東京 (577人)、3位新潟 (332人) 短期大学 : 1位宮城 (91人)、2位福島 (15人)、3位北海道・埼玉・東京・新潟 (6人)

	福島県	学校数 大学 : 8 (国立 1・公立 2・私立 5) 短期大学 : 5 (公立 1・私立 4) 専門学校 : 34 (公立 4・私立 30)
		卒業者数 2016年17,642人→2025年14,002人 (3,640人減少)
		進学者数 大学 : 2016年6,850人→2025年6,519人 (331人減少) 短期大学 : 2016年1,008人→2025年 565人 (443人減少) 専門学校 : 2016年3,218人→2025年2,275人 (943人減少)
		進学率（現役） 大学 : 2016年38.8%→2025年46.6% (7.8ポイント上昇) 短期大学 : 2016年 5.7%→2025年 4.0% (1.7ポイント低下) 専門学校 : 2016年18.2%→2025年16.2% (2.0ポイント低下)
		残留率 大学 : 2016年18.9%→2025年20.4% (1.5ポイント上昇) 短期大学 : 2016年67.1%→2025年70.5% (3.4ポイント上昇)
		入学者流入元 ※地元は除く 大学 : 1位宮城 (244人)、2位茨城 (225人)、3位栃木 (184人) 短期大学 : 1位山形 (15人)、2位岩手 (10人)、3位秋田 (7人)
		入学者流出先 ※地元は除く 大学 : 1位東京 (1,458人)、2位宮城 (994人)、3位神奈川 (522人) 短期大学 : 1位宮城 (68人)、2位山形 (29人)、3位埼玉・東京 (20人)

・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地（2024年学校基本調査より）
・卒業者数 : 高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部卒業者）
・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・進学率（現役） : 進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程＋特別支援学校高等部）
・残留率 : 自県内（地元）の大学・短期大学入学者のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者の割合（浪人含）
・流入 : 自県内（地元）の大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の高校出身者が大学・短期大学に入学者の割合（浪人含）
・流出 : 自県内（地元）の高校出身者が大学・短期大学に入学者のうち、自県以外（地元以外）の大学・短期大学に入学者の割合（浪人含）
※専門学校＝専修学校専門課程

【資料2】

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	青森県	952人	83.0%
2	岩手県	79人	6.9%
3	秋田県	57人	5.0%
4	北海道	41人	3.6%
5	宮城県	18人	1.6%
	全 体	1,147人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合のみ作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 （都道府県等）	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	青森県	89.10%	88.30%	87.10%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度
1	理・工学系			
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

別紙 2 の 1

【資料4】

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2の2－1

大学学部学科等名：八戸工業大学工学部工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人員	49人	49人	49人	49人	49人	49人
	延べ人数	109人	92人	60人	74人	93人	86人
		109人	92人	60人	73人	93人	85人
		106人	87人	60人	72人	93人	84人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	1人	3人	1人
	実人数	109人	92人	60人	74人	93人	86人
		109人	92人	60人	73人	93人	85人
		106人	87人	60人	72人	93人	84人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	0人	0人	2人	3人	1人
	入学者数	104人	86人	57人	69人	87人	81人
学校推薦型選抜	募集人員	67人	67人	67人	67人	67人	67人
	延べ人数	69人	83人	66人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	69人	83人	66人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		69人	83人	65人	52人	59人	66人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数	68人	83人	64人	51人	57人	65人
一般選抜	募集人員	58人	58人	58人	58人	58人	58人
	延べ人数	58人	74人	60人	28人	36人	51人
		57人	73人	58人	25人	36人	50人
		54人	71人	54人	22人	34人	47人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	3人	0人	2人	1人
	実人数	58人	74人	60人	28人	36人	51人
		57人	73人	58人	25人	36人	50人
		54人	71人	54人	22人	34人	47人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		6人	6人	6人	0人	6人	5人
	入学者数	25人	30人	12人	6人	14人	17人
共通テスト利用入試	募集人員	76人	76人	76人	76人	76人	76人
	延べ人数	187人	165人	126人	86人	84人	130人
		187人	165人	126人	86人	83人	129人
		183人	162人	126人	86人	80人	127人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		3人	4人	8人	4人	2人	4人
	実人数	187人	165人	126人	86人	84人	130人
		187人	165人	126人	86人	83人	129人
		183人	162人	126人	86人	80人	127人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		13人	12人	10人	6人	11人	10人
	入学者数	64人	36人	29人	22人	23人	35人
その他の特別選抜	募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
		0人	2人	2人	1人	1人	1人
		0人	1人	2人	1人	1人	1人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
		0人	2人	2人	1人	1人	1人
		0人	1人	2人	1人	1人	1人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	1人	2人	1人	1人	1人
合計	募集人員	250人	250人	250人	250人	250人	250人
	延べ人数	423人	416人	314人	242人	273人	334人
		422人	415人	311人	237人	272人	331人
		412人	404人	307人	233人	267人	325人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		4人	5人	11人	5人	8人	7人
	実人数	423人	416人	314人	242人	273人	334人
		422人	415人	311人	237人	272人	331人
		412人	404人	307人	233人	267人	325人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		20人	18人	16人	8人	21人	17人
	入学者数	261人	236人	164人	149人	182人	198人

2. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	250人	250人	250人	250人	250人	250人
入 学 定 員 充 足 率	1.04	0.94	0.66	0.60	0.73	0.79
歩 留 率	0.63	0.58	0.53	0.64	0.68	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

【資料4】

既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）

別紙2の2-2

大学学部学科等名：八戸工業大学工学部感性デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人員	11人	11人	11人	11人	11人	11人
	延べ人数	29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		29人	9人	17人	16人	16人	17人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	29人	9人	16人	14人	16人	17人
学校推薦型選抜	募集人員	13人	13人	13人	13人	13人	13人
	延べ人数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		8人	17人	5人	17人	10人	11人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	8人	17人	5人	17人	10人	11人
一般選抜	募集人員	12人	12人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	13人	8人	6人	3人	4人	7人
		13人	8人	6人	3人	4人	7人
		12人	7人	6人	3人	4人	6人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	13人	8人	6人	3人	4人	7人
		13人	8人	6人	3人	4人	7人
		12人	7人	6人	3人	4人	6人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		3人	1人	2人	0人	0人	1人
	入学者数	7人	3人	0人	1人	3人	3人
共通テスト利用入試	募集人員	14人	14人	14人	14人	14人	14人
	延べ人数	17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	12人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	14人	16人
		17人	27人	14人	10人	12人	16人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	2人	1人
	入学者数	9人	10人	5人	4人	4人	6人
その他の特別選抜	募集人員	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	1人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	67人	62人	42人	46人	44人	52人
		67人	62人	42人	46人	44人	52人
		66人	60人	42人	46人	42人	51人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	67人	62人	42人	46人	44人	52人
		67人	62人	42人	46人	44人	52人
		66人	60人	42人	46人	42人	51人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		4人	2人	2人	1人	2人	2人
	入学者数	53人	39人	26人	36人	33人	37人

2. 入学定員充足率

	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	R7年度入学者	平 均
入 学 定 員	50人	50人	50人	50人	50人	50人
入 学 定 員 充 足 率	1.06	0.78	0.52	0.72	0.66	0.75
歩 留 率	0.80	0.65	0.62	0.78	0.79	0.73

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

八戸工業大学
「総合情報学部 総合情報学科」(仮称)
進学需要等に関するアンケート調査
結果報告書
【高校生対象調査】

令和 8 年 3 月
株式会社システム環境研究所

調査概要

調査目的

令和9年4月開設予定の八戸工業大学「総合情報学部 総合情報学科（仮称）」の設置構想に関して、高校生からの進学需要を把握する。

調査概要

- 調査対象：受験実績や入学実績のある高等学校
- 調査地域：青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 調査方法：高等学校留め置き
- 調査時期：令和7年10月～令和8年1月
- 回収校数：2年生／29校
1年生／31校
- 集計人数：2年生／3,072人
1年生／2,902人

調査項目

- 学年
- 卒業後の進路
- 進学を希望する場合の大学等の設置者
- 興味のある学問分野
- 新設組織の受験希望
- 新設組織に合格した場合の入学希望

【資料5】

学年

学年

○学年について、「1年生」と回答した者が2,902人、「2年生」と回答した者が3,072人となっている。

問1 学年

【設問】

学年

No.	カテゴリ	件数／人
1	1年生	2,902
2	2年生	3,072

【2年生】卒業後の進路

卒業後の進路

○卒業後の進路について、「大学」と回答した者が総回答数 3,986 人の約 60.6%にあたる 2,417 人、「短期大学」と回答した者が総回答数 3,986 人の約 20.4%にあたる 812 人、「専門職大学」と回答した者が総回答数 3,986 人の約 5.2%にあたる 206 人、「専門職短期大学」と回答した者が総回答数 3,986 人の約 1.3%にあたる 51 人となっている。

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学	2,417	60.6
2	短期大学	812	20.4
3	専門職大学	206	5.2
4	専門職短期大学	51	1.3
5	専門学校	189	4.7
6	就職	300	7.5
7	その他	7	0.2
	未回答・不明	4	0.1
	合計	3,986	100.0

注)総回答数に対する割合

【2年生】進学を希望する場合の大学等の設置者

進学を希望する場合の大学等の設置者

○進学を希望する場合の大学等の設置者について、「国立」と回答した者が総回答数 3,648 人の約 31.2%にあたる 1,138 人、「公立」と回答した者が総回答数 3,648 人の約 59.0%にあたる 2,151 人、「私立」と回答した者が総回答数 3,648 人の約 9.5%にあたる 346 人となっている。

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	国立	1,138	31.2
2	公立	2,151	59.0
3	私立	346	9.5
	未回答・不明	13	0.4
	合計	3,648	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

注) 総回答数に対する割合

【2年生】興味のある学問分野

興味のある学問分野

○高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野について、新設組織に該当する学問分野である「電気通信工学（デジタルメディア・情報セキュリティ）」と回答した者は総回答数 6,312 人の約 15.3%にあたる 968 人、「コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学」と回答した者は総回答数 6,312 人の約 15.1%にあたる 954 人となっている。

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学等	271	4.3
2	法学・政治学	204	3.2
3	商学・経済学	325	5.1
4	社会学	295	4.7
5	数学・物理・化学・生物等	334	5.3
6	電気通信工学(デジタルメディア・情報セキュリティ)	968	15.3
7	機械工学	628	9.9
8	コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学	954	15.1
9	土木建築工学	445	7.1
10	農学・農芸化学等	283	4.5
11	医学・歯学等	236	3.7
12	薬学・看護等	215	3.4
13	家政学・食物学・住居学等	184	2.9
14	教育学	284	4.5
15	美術・デザイン・音楽等	478	7.6
16	その他	204	3.2
	未回答・不明	4	0.1
	合計	6,312	100.0

注）問2で①～④を選択した者のみ集計

注）総回答数に対する割合

【2年生】新設組織の受験希望の有無

新設組織の受験希望の有無

○八戸工業大学に総合情報学部総合情報学科が開設された場合の受験希望について、
「第一志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,847 人の約 3.8%にあたる
109 人、「第二志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,847 人の約 0.3%に
あたる 8 人、「第三志望以降として受験する」と回答した者が回答者数 2,847 人の
約 0.7%にあたる 21 人、「受験しない」と回答した者が回答者数 2,847 人の約 94.5%
にあたる 2,691 人となっている。

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「総合情報学部 総合情報学科」が開設された場合、受験を希望しますか。
次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	第一志望として受験する	109	3.8
2	第二志望として受験する	8	0.3
3	第三志望以降として受験する	21	0.7
4	受験しない	2,691	94.5
	未回答・不明	18	0.6
	合計	2,847	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

【2年生】新設組織に合格した場合の入学希望の有無

新設組織に合格した場合の入学希望の有無

○八戸工業大学の総合情報学部総合情報学科を受験して合格した場合の入学希望について、「入学する」と回答した者が回答者数 138 人の約 84.1%にあたる 116 人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者が回答者数 138 人の約 15.9%にあたる 22 人となっている。

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、①～③を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「総合情報学部 総合情報学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。
次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学する	116	84.1
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	22	15.9
3	入学しない	0	0.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	138	100.0

注) 問5で①～③を選択した者のみ集計

【2年生】新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

○卒業後の進路を「大学」、進学を希望する場合の大学等の設置者を「私立」、興味のある学問分野を「電気通信工学（デジタルメディア・情報セキュリティ）」、「コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学」、新設組織の受験希望を「第一志望として受験する」、新設組織に合格した場合の入学希望を「入学する」と回答した者は107人となっている。

回答者数 (合計)	問1 卒業後の進路	問2 進学希望の 大学設置者	問3 興味のある 学問分野	問4 新設組織の 受験希望有無	問5 合格した場合の 入学希望有無
	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
3,072 名	①大学 2,417 名 (78.7%)	③私立 315 名 (13.0%)	⑥電気通信工 学（デジタル メディア・情 報セキュリティ） ⑧コンピュ ータサイエ ンス学・メ ディアデ ザイン学 のいずれか を選択 110 名 (34.9%) ※新設組織に該 当する学問分 野を選択した 者のみ記載	① 第一希望と して受験する 107 名 (97.3%)	①入学する 107 名 (100.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 0 名 (0.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				② 第二希望と して受験する 1 名 (0.9%)	①入学する 1 名 (100.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 0 名 (0.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				③ 第三希望と して受験する 2 名 (1.8%)	①入学する 2 名 (100.0%) ②志望順位が上 位の他の志望校 が不合格の場合 に入学する 0 名 (0.0%) ③入学しない 0 名 (0.0%)
				④受験しない	

※クロス集計の結果：入学見込者
107 名

【1年生】卒業後の進路

卒業後の進路

○卒業後の進路について、「大学」と回答した者が総回答数 3,843 人の約 58.1%にあたる 2,233 人、「短期大学」と回答した者が総回答数 3,843 人の約 18.2%にあたる 701 人、「専門職大学」と回答した者が総回答数 3,843 人の約 5.2%にあたる 198 人、「専門職短期大学」と回答した者が総回答数 3,843 人の約 1.9%にあたる 74 人となっている。

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学	2,233	58.1
2	短期大学	701	18.2
3	専門職大学	198	5.2
4	専門職短期大学	74	1.9
5	専門学校	276	7.2
6	就職	335	8.7
7	その他	24	0.6
	未回答・不明	2	0.1
	合計	3,843	100.0

注)総回答数に対する割合

【1年生】進学を希望する場合の大学等の設置者

進学を希望する場合の大学等の設置者

○進学を希望する場合の大学等の設置者について、「国立」と回答した者が総回答数 3,266 人の約 28.7%にあたる 936 人、「公立」と回答した者が総回答数 3,266 人の約 61.6%にあたる 2,012 人、「私立」と回答した者が総回答数 3,266 人の約 9.1%にあたる 297 人となっている。

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、①～④を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	国立	936	28.7
2	公立	2,012	61.6
3	私立	297	9.1
	未回答・不明	21	0.6
	合計	3,266	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

注) 総回答数に対する割合

【1年生】興味のある学問分野

興味のある学問分野

○高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野について、新設組織に該当する学問分野である「電気通信工学（デジタルメディア・情報セキュリティ）」と回答した者は総回答数 5,314 人の約 20.1%にあたる 1,070 人、「コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学」と回答した者は総回答数 5,314 人の約 21.2%にあたる 1,124 人となっている。

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（複数選択可）

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学等	175	3.3
2	法学・政治学	208	3.9
3	商学・経済学	169	3.2
4	社会学	221	4.2
5	数学・物理・化学・生物等	266	5.0
6	電気通信工学(デジタルメディア・情報セキュリティ)	1,070	20.1
7	機械工学	497	9.4
8	コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学	1,124	21.2
9	土木建築工学	301	5.7
10	農学・農芸化学等	176	3.3
11	医学・歯学等	132	2.5
12	薬学・看護等	139	2.6
13	家政学・食物学・住居学等	109	2.1
14	教育学	139	2.6
15	美術・デザイン・音楽等	434	8.2
16	その他	144	2.7
	未回答・不明	10	0.2
	合計	5,314	100.0

注）問2で①～④を選択した者のみ集計

注）総回答数に対する割合

【1年生】新設組織の受験希望の有無

新設組織の受験希望の有無

○八戸工業大学に総合情報学部総合情報学科が開設された場合の受験希望について、
「第一志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,717 人の約 4.4%にあたる
119 人、「第二志望として受験する」と回答した者が回答者数 2,717 人の約 1.3%に
あたる 34 人、「第三志望以降として受験する」と回答した者が回答者数 2,717 人の
約 2.1%にあたる 57 人、「受験しない」と回答した者が回答者数 2,717 人の約 91.2%
にあたる 2,477 人となっている。

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「総合情報学部 総合情報学科」が開設された場合、受験を希望しますか。
次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	第一志望として受験する	119	4.4
2	第二志望として受験する	34	1.3
3	第三志望以降として受験する	57	2.1
4	受験しない	2,477	91.2
	未回答・不明	30	1.1
	合計	2,717	100.0

注) 問2で①～④を選択した者のみ集計

【資料5】

【1年生】新設組織に合格した場合の入学希望の有無

新設組織に合格した場合の入学希望の有無

○八戸工業大学の総合情報学部総合情報学科を受験して合格した場合の入学希望について、「入学する」と回答した者が回答者数 210 人の約 59.0%にあたる 124 人、「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」と回答した者が回答者数 210 人の約 38.6%にあたる 81 人、「入学しない」と回答した者が回答者数 210 人の約 1.9%にあたる 4 人となっている。

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、①～③を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「総合情報学部 総合情報学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学する	124	59.0
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	81	38.6
3	入学しない	4	1.9
	未回答・不明	1	0.5
	合計	210	100.0

注) 問5で①～③を選択した者のみ集計

【資料5】

【1年生】新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

新設組織に合格した場合の入学希望(クロス集計)

○卒業後の進路を「大学」、進学を希望する場合の大学等の設置者を「私立」、興味のある学問分野を「電気通信工学（デジタルメディア・情報セキュリティ）」、「コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学」、新設組織の受験希望を「第一志望として受験する」、新設組織に合格した場合の入学希望を「入学する」と回答した者は105人となっている。

回答者数 (合計)	問1 卒業後の進路	問2 進学希望の 大学設置者	問3 興味のある 学問分野	問4 新設組織の 受験希望有無	問5 合格した場合の 入学希望有無
	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
2,902名	①大学 2,233名 (76.9%)	③私立 261名 (11.7%)	⑥電気通信工学（デジタルメディア・情報セキュリティ） ⑧コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学のいずれかを選択 147名 (56.3%) ※新設組織に該当する学問分野を選択した者のみ記載	①第一希望として受験する 105名 (71.4%)	①入学する 105名 (100.0%) ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 0名 (0.0%) ③入学しない 0名 (0.0%)
				②第二希望として受験する 11名 (7.5%)	①入学する 3名 (27.3%) ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 8名 (72.7%) ③入学しない 0名 (0.0%)
				③第三希望として受験する 10名 (6.8%)	①入学する 2名 (20.0%) ②志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する 7名 (70.0%) ③入学しない 1名 (10.0%)
				④受験しない	

※クロス集計の結果：入学見込者
105名

参考資料 進学需要調査関係

- 進学需要等に関するアンケート調査票
- 進学需要等に関するアンケート調査依頼先一覧
- 総合情報学部 総合情報学科 概要

【資料5】

八戸工業大学 総合情報学部 総合情報学科(仮称) 進学需要等に関するアンケート調査(高校生)

八戸工業大学では、情報技術の活用や運用を通して、経済成長の促進に貢献できる専門的な知識と実践的な能力を有した人材の養成にむけた教育研究体制の一層の充実を目指して、既設の工学部を発展的に改組し、新たに「総合情報学部 総合情報学科(仮称)」として設置することを検討しております。

このアンケート調査は、高校生の皆さんに、卒業後の進路等についてお聞きし、「総合情報学部 総合情報学科(仮称)」の設置に向けての基礎資料とするものですので、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、このアンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用い、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答は、別紙リーフレットをご覧ください。設問の順に、該当する番号を直接回答欄にご記入ください。

別紙補足事項：総合情報学部 総合情報学科アドミッション・ポリシー

総合情報学科は、総合的なデジタル技術の基礎原理を踏まえ、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力、高度なデジタル社会を構築・推進するために必要な新たな価値や技術を創造し実装することができる能力、論理的・創造的思考力やコミュニケーション能力を身につけ、異なる分野の人とも協調して課題を発見・解決に、倫理的責任を持ってあたることができる人材の育成を目指しています。

総合情報学科は、社会情報 DX、メディアデザイン、コンピュータサイエンス及びサイバーセキュリティの4プログラムの教育体制を取っており、総合情報学の目的ならびにそれぞれのプログラムの学びに強い関心があり、これらの能力を身につけて地域や社会で活躍したいという目標を持って主体的かつ自律的に取り組む人を受け入れます。

問1 学年

【設問】

学年

【選択肢】

1 1年生

2 2年生

●
【回答欄】

1	①	②
---	---	---

問2 卒業後の進路

【設問】

卒業後の進路をどのように考えていますか。(複数選択可)

【選択肢】

1 大学

2 短期大学

3 専門職大学

4 専門職短期大学

5 専門学校

6 就職

7 その他

2	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
---	---	---	---	---	---	---	---

●
裏面に進んでください ⇒

【資料5】

問3 進学を希望する場合の大学等の設置者

【設問】

上記設問のうち、1～4を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。(複数選択可)

3	①	②	③
---	---	---	---

【選択肢】

- 1 国立 2 公立 3 私立

問4 興味のある学問分野

【設問】

高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。

(複数選択可)

4	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
---	---	---	---	---	---	---

【選択肢】

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 文学・史学・哲学等 | 2 法学・政治学 |
| 3 商学・経済学 | 4 社会学 |
| 5 数学・物理・化学・生物等 | 6 電気通信工学(デジタルメディア・情報セキュリティ) |
| 7 機械工学 | 8 コンピュータサイエンス学・メディアデザイン学 |
| 9 土木建築工学 | 10 農学・農芸化学等 |
| 11 医学・歯学等 | 12 薬学・看護学等 |
| 13 家政学・食物学・住居学等 | 14 教育学 |
| 15 美術・デザイン・音楽等 | 16 その他 |

問5 新設組織の受験希望の有無

【設問】

八戸工業大学に「総合情報学部 総合情報学科」が開設された場合、受験を希望しますか。

次より一つ選択してください。

5	①	②	③	④
---	---	---	---	---

【選択肢】

- 1 第一志望として受験する 2 第二志望として受験する
3 第三志望以降として受験する 4 受験しない

問6 新設組織に合格した場合の入学希望の有無

【設問】

上記設問で、1～3を選択した方に質問です。

八戸工業大学の「総合情報学部 総合情報学科」を受験して合格した場合、入学を希望しますか。

次より一つ選択してください。

6	①	②	③
---	---	---	---

【選択肢】

- 1 入学する 2 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
3 入学しない

これで、アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

【資料5】

進学需要に関するアンケート調査依頼先一覧

2年生

都道府県	高等学校名	住所
青森県	青森県立青森西高等学校	青森県青森市新城字平岡266-20
青森県	青森県立弘前高等学校	青森県弘前市新寺町1-1
青森県	青森県立弘前南高等学校	青森県弘前市大開4-1-1
青森県	青森県立八戸北高等学校	青森県八戸市大久保町道8-3
青森県	青森県立木造高等学校	青森県つがる市木造日向73-2
青森県	青森県立三本木高等学校	青森県十和田市西五番町7-1
青森県	青森県立三沢高等学校	青森県三沢市松園町1-1
青森県	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市大湊字大近川44-84
青森県	青森県立弘前工業高等学校	青森県弘前市馬屋町6-2
青森県	青森県立八戸工業高等学校	青森県八戸市江陽1-2-27
青森県	青森県立十和田工業高等学校	青森県十和田市三本木字下平215-1
青森県	青森県立三沢商業高等学校	青森県三沢市春日台2-154
青森県	青森県立八戸西高等学校	青森県八戸市尻内町字中根市14
青森県	青森県立青森北高等学校	青森県青森市羽白字富田80-7
青森県	青森県立黒石高等学校	青森県黒石市西ヶ丘65
青森県	青森県立五所川原工科高等学校	青森県五所川原市湊船越192
青森県	柴田学園大学附属柴田学園高等学校	青森県弘前市豊原1-2-1
青森県	八戸工業大学第一高等学校	青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10
青森県	五所川原第一高等学校	青森県五所川原市元町42
青森県	八戸工業大学第二高等学校	青森県八戸市妙字大開67
岩手県	岩手県立北上翔南高等学校	岩手県北上市相去町高前檀13
岩手県	岩手県立大東高等学校	岩手県一関市大東町摺沢字堀河ノ沢34-4
宮城県	宮城県石巻高等学校	宮城県石巻市大手町3-15
宮城県	宮城県石巻工業高等学校	宮城県石巻市貞山5-1-1
宮城県	東陵高等学校	宮城県気仙沼市大峠山1-1
秋田県	秋田県立鹿角高等学校	秋田県鹿角市花輪字明堂長根12
山形県	山形県立米沢東高等学校	山形県米沢市丸の内2-5-63
福島県	福島県立若松商業高等学校	福島県会津若松市米代1-3-31
福島県	福島県立いわき翠の杜高等学校	福島県いわき市内郷綴町板宮2番地

計29校

学生確保（資料5）

【資料5】

進学需要に関するアンケート調査依頼先一覧

1年生

都道府県	高等学校名	住所
青森県	青森県立青森西高等学校	青森県青森市新城字平岡266-20
青森県	青森県立弘前高等学校	青森県弘前市新寺町1-1
青森県	青森県立弘前南高等学校	青森県弘前市大開4-1-1
青森県	青森県立八戸北高等学校	青森県八戸市大久保町道8-3
青森県	青森県立木造高等学校	青森県つがる市木造日向73-2
青森県	青森県立三沢高等学校	青森県三沢市松園町1-1
青森県	青森県立大湊高等学校	青森県むつ市大湊字大近川44-84
青森県	青森県立弘前工業高等学校	青森県弘前市馬屋町6-2
青森県	青森県立八戸工業高等学校	青森県八戸市江陽1-2-27
青森県	青森県立十和田工業高等学校	青森県十和田市三本木字下平215-1
青森県	青森県立三沢商業高等学校	青森県三沢市春日台2-154
青森県	青森県立八戸西高等学校	青森県八戸市尻内町字中根市14
青森県	青森県立青森北高等学校	青森県青森市羽白字富田80-7
青森県	青森県立八戸中央高等学校	青森県八戸市諏訪1-2-17
青森県	青森県立黒石高等学校	青森県黒石市西ヶ丘65
青森県	青森県立五所川原工科高等学校	青森県五所川原市湊船越192
青森県	柴田学園大学附属柴田学園高等学校	青森県弘前市豊原1-2-1
青森県	八戸工業大学第一高等学校	青森県八戸市白銀町字右岩淵通7-10
青森県	五所川原第一高等学校	青森県五所川原市元町42
青森県	八戸工業大学第二高等学校	青森県八戸市妙字大開67
岩手県	岩手県立北上翔南高等学校	岩手県北上市相去町高前檀13
岩手県	岩手県立大東高等学校	岩手県一関市大東町摺沢字堀河ノ沢34-4
宮城県	宮城県石巻高等学校	宮城県石巻市大手町3-15
宮城県	宮城県石巻工業高等学校	宮城県石巻市貞山5-1-1
宮城県	宮城県石巻西高等学校	宮城県東松島市赤井字七反谷地27
宮城県	宮城県柴田高等学校	宮城県柴田郡柴田町大字本船迫字十八津入7-3
宮城県	東陵高等学校	宮城県気仙沼市大峠山1-1
秋田県	秋田県立鹿角高等学校	秋田県鹿角市花輪字明堂長根12
山形県	山形県立米沢東高等学校	山形県米沢市丸の内2-5-63
福島県	福島県立若松商業高等学校	福島県会津若松市米代1-3-31
福島県	福島県立いわき翠の杜高等学校	福島県いわき市内郷綴町板宮2番地

計31校

【資料5】

八戸工業大学 総合情報学部 総合情報学科（設置構想中）概要 【令和9（2027）年4月 開設予定】

○学部等の概要

- ・学部学科：総合情報学部 総合情報学科（男女共学）
学位：学士（情報学）、学位の分野：工学関係
- ・学生定員：入学定員100名／収容定員400名
- ・開設時期：令和9（2027）年4月
- ・設置場所：八戸市大字妙字大開88番地1号
- ・アクセス：JR 東北新幹線「八戸駅」から JR 八戸線に乗り換え「本八戸駅」下車、「本八戸駅」より大学までバスで約35分、タクシーで約20分
JR 東北新幹線「八戸駅」からタクシーで大学直行約30分

○教育研究上の理念・目的

総合教養、数理・データサイエンス・AI 及び自然科学の基礎を習得する。そして、地域社会との繋がりを重視した共創教育を通じて専門分野の基盤となる素養を身につける。さらに、デジタル社会、メディアデザイン、コンピュータサイエンス及びサイバーセキュリティのいずれかの専門知識を身につけるとともに、幅広い科目群の学習により、情報学の基本的な知識・技術とその応用・展開力を身につけ、高度な情報化社会やサイバー空間等の実現に貢献することを教育研究上の目的とする。

○学びの特徴

総合教養と多面的な視野、デザイン思考や自然科学等の専門分野の基盤となる基礎知識、社会人・職業人として必要なコミュニケーション能力を身につけるとともに、北東北地域の自然・社会・産業とこれに係わる科学技術への関心を深める。そして、デジタル社会、メディアデザイン、コンピュータサイエンス及びサイバーセキュリティのいずれかの専門分野において応用展開能力を習得し、社会のさまざまな領域を「情報」という視点から捉え、デジタル社会に貢献できる実践的な力を身につける。

○育成する人材像

情報科学やメディア等の幅広いデジタル技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、高度なデジタル社会を構築・推進するために必要な新たな価値や技術を創造し実装することができる人材を養成します。

○想定される卒業後の進路

データサイエンティスト、マーケティング・データ分析、企画・広報部門、デジタルコンテンツ関連企業、動画・映像クリエイター、ソフトウェア開発、Web・アプリ開発者、ネットワークエンジニア、情報セキュリティエンジニア、公務員・教員等を目指し、北東北を中心とした地域社会の発展に貢献する。

○学生納付金（納付金は予定金額のため、変更となる可能性があります。）

初年度納付金 1,543,000 円（入学金 250,000 円 授業料等 1,272,000 円 入学検定料 30,000 円 他）

○同系統の学びのある大学・学部・学科・課程

- ・東北工業大学
工学部 電気電子工学課程・情報通信工学課程・都市工学課程・環境応用化学課程
建築学部 建築学科
ライフデザイン学部 産業デザイン学科・生活デザイン学科・経営デザイン学科
- ・東北学院大学
工学部 機械知能工学科・電気電子工学科・環境建設工学科

学生確保（資料5）

八戸工業大学
「総合情報学部 総合情報学科」(仮称)
人材需要等に関するアンケート調査
結果報告書
【関連企業等対象調査】

令和 8 年 3 月
株式会社システム環境研究所

調査概要

調査目的

令和9年4月開設予定の八戸工業大学「総合情報学部 総合情報学科（仮称）」の設置構想に関して、関連企業等からの人材需要を把握する。

調査概要

- 調査対象：求人実績や採用実績のある関連企業等
- 調査地域：青森県、北海道、岩手県、秋田県、宮城県、栃木県、茨城県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、新潟県、長野県、愛知県、京都府、大阪府、岐阜県、香川県
- 調査方法：オンラインによる調査
- 調査時期：令和7年12月～令和8年1月
- 依頼件数：317件
- 回答件数：129件

調査項目

- 所在地
- 人材の採用見込み
- 養成する人材の必要性
- 卒業生の採用
- 卒業生の採用人数

【資料6】

所在地

所在地

○所在地について、「青森県」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 46.5%にあたる 60 件、「東京都」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 24.8%にあたる 32 件、「その他」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 28.7%にあたる 37 件となっている。

1. 所在地

【設問】

貴社の所在地について、お尋ねいたします。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／％
1	青森県	60	46.5
2	東京都	32	24.8
3	その他	37	28.7
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

人材の採用見込み

人材の採用採用見込み

○人材の採用見込みについて、「増加すると思う」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 75.2%にあたる 97 件、「増加すると思わない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 24.8%にあたる 32 件となっている。

2. 人材の採用見込み

【設問】

今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	増加すると思う	97	75.2
2	増加すると思わない	32	24.8
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

養成する人材の必要性

養成する人材の必要性

○八戸工業大学の総合情報学部総合情報学科で養成する人材について、「必要性を感じる」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 96.9%にあたる 125 件、「必要性を感じない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 3.1%にあたる 4 件となっている。

3. 養成する人材の必要性

【設問】

八戸工業大学の養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

総合情報学部総合情報学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	必要性を感じる	125	96.9
2	必要性を感じない	4	3.1
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

卒業生の採用

卒業生の採用

○八戸工業大学の総合情報学部総合情報学科で学んだ卒業生の採用について、「採用したいと思う」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 86.0%にあたる 111 件、「採用したいと思わない」と回答した企業等が回答件数 129 件の約 14.0%にあたる 18 件となっている。

4. 卒業生の採用

【設問】

八戸工業大学で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

総合情報学部総合情報学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／％
1	採用したいと思う	111	86.0
2	採用したいと思わない	18	14.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	129	100.0

卒業生の採用人数の見込み

卒業生の採用人数の見込み

○八戸工業大学の総合情報学部総合情報学科で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、「1人」と回答した企業等が回答件数 111 件の約 26.1%にあたる 29 件、「2人」と回答した企業等が回答件数 111 件の約 4.5%にあたる 5 件、「3人以上」と回答した企業等が回答件数 111 件の約 9.0%にあたる 10 件、「人数は未定」と回答した企業等が回答件数 111 件の約 59.5%にあたる 66 件となっている。

5. 卒業生の採用人数の見込み

【設問】

八戸工業大学で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。

総合情報学部総合情報学科

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	1人	29	26.1
2	2人	5	4.5
3	3人以上	10	9.0
4	人数は未定	66	59.5
	未回答・不明	1	0.9
	合計	111	100.0

卒業生の採用人数の見込み(クロス集計)

卒業生の採用人数の見込み(クロス集計)

○新設組織の養成する人材を「必要性を感じる」、新設組織で学んだ卒業生の採用を「採用したいと思う」、新設組織で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みを「1人」、「2人」、「3人以上」、「人数は未定」と回答した関連企業等は110件となっている。

なお、採用人数を「3人以上」と回答した採用人数を「3人」、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると135人となる。

No.	カテゴリ	件数／件	人数／人
1	必要性を感じる×採用したいと思う×1人	29	29
2	必要性を感じる×採用したいと思う×2人	5	10
3	必要性を感じる×採用したいと思う×3人	10	30
4	必要性を感じる×採用したいと思う×人数は未定	66	66
	合計	110	135

参考資料 人材需要調査関係

- 人材需要等に関するアンケート調査票
- 人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧
- 学部学科紹介リーフレット

【資料6】

八戸工業大学 設置構想中の学部における 人材需要等に関する アンケート調査

対象：人事採用担当者様

※アンケートの結果は、コンピュータにより処理され、統計資料としてのみ用いることとして
おり、個別の回答内容について公開したりすることはありません。

回答する

貴社の所在地について、お尋ねいたします。

【必ず回答】

☐ 青森県

☐ 東京都

☐ その他（具体的に）

今後の貴社における人材の採用見込について、お尋ねいたします。

【必ず回答】

☐ 増加と思う

☐ 増加と思わない

■以降の質問は、適宜、学部学科紹介リーフレットを参照しながら、お答えください。
別画面でリーフレットが開きます。

→ [リーフレットを閲覧](#)

【資料6】

八戸工業大学の養成する人材について、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

先進工学部先進工学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 必要性を感じる
- ☐ 必要性を感じない

八戸工業大学で学んだ卒業生の採用について、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

先進工学部先進工学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 採用したいと思う
- ☐ 採用したいと思わない

【資料6】

八戸工業大学で学んだ卒業生を採用する場合の単年度当りの採用人数の見込みについて、どのようにお考えになりますか。

【必ず回答】

総合情報学部総合情報学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

先進工学部先進工学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

デザイン工学部デザイン工学科

- ☐ 1人
- ☐ 2人
- ☐ 3人以上
- ☐ 人数は未定
- ☐ 採用したいと思わない

【資料6】

八戸工業大学に対するご意見・ご要望等をご自由にお書きください。
先進工学部先進工学科

0文字

総合情報学部総合情報学科

0文字

デザイン工学部デザイン工学科

0文字

送信

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
1	岩田地崎建設(株)	51	(株)ビー・エム
2	北海道旅客鉄道(株)	52	アルバック東北(株)
3	(株)ツルハ	53	(株)大山建工
4	ハコレコドットコム(株)	54	東北医療福祉事業協同組合(SGグループ)
5	日本原燃(株)	55	富士電機津軽セミコンダクタ(株)
6	(株)サンデー	56	(株)七洋
7	(株)青森芝浦電子	57	(株)中野グループ
8	青森日揮プランテック(株)	58	(株)ユニバース
9	(株)ジェイテック	59	(株)河原木電業
10	六ヶ所エンジニアリング(株)	60	(株)丸大サクラ㊿薬局
11	田中建設(株)	61	日本原燃分析(株)
12	プライフーズ(株)	62	(株)青森クリエイト
13	東和電機工業(株)	63	丸喜(株)齋藤組
14	(株)ムジコ・クリエイト	64	(株)吉田産業
15	(株)ハチカン	65	東北化学薬品(株)
16	日本フードパッカー(株)	66	広和計装(株)
17	(株)ササキコーポレーション	67	(株)鹿内組
18	トヨタカローラ八戸(株)	68	弘前航空電子(株)
19	(株)高橋製作所	69	(株)ヘリテージホーム
20	(株)石上建設	70	紅屋商事(株)
21	青い森信用金庫	71	(株)松本工務店
22	穂積建設工業(株)	72	レガロホーム(株)
23	(株)サンライズ・エー・イー	73	環境保全(株)
24	(株)石川設計	74	(株)セインハイテック
25	日本ホワイトファーム(株)	75	青森県信用組合
26	(株)藤本建設	76	(株)齋藤建設
27	(株)福萬組	77	青森オリンパス(株)
28	(株)八洲建築設計事務所	78	(株)アイティコワーク
29	高周波鋳造(株)	79	(株)ライフスタイルカンパニー
30	(株)ザックス	80	小幡建設工業(株)
31	(株)IGAメックス	81	青森リバーテクノ(株)
32	太子食品工業(株)	82	(株)角弘
33	(株)サン・コンピュータ	83	(株)デーリー東北新聞社
34	(株)大進建設	84	(株)プロクレアホールディングス
35	八戸缶詰(株)	85	(株)テクノル
36	(株)田中組	86	生活協同組合コープあおもり
37	青森トヨタ自動車(株)	87	(株)吉田管財
38	(株)田名部組	88	青森トヨペット(株)
39	大平洋金属(株)	89	(株)といず不動産
40	(株)柏崎組	90	(株)ホクエツ東北
41	八戸液化ガス(株)	91	(株)コサカ技研
42	(株)青森電子計算センター	92	(株)中綱組
43	寺下建設(株)	93	八戸通運(株)
44	(株)RABサービス	94	(株)金入
45	(株)第一ホーム	95	八戸ガス(株)
46	(株)共同物流サービス アイティークレスト事業部	96	タナカホーム(株)
47	(株)マエダ	97	マルヨ水産(株)
48	(株)サンライズエンジニアリング	98	上北建設(株)
49	三八五流通(株)	99	(株)大坂組
50	アール・エー・ビー開発(株)	100	(株)ハシモトホーム

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
101	青森マツダ自動車(株)	151	東北発電工業(株)
102	階上キューピー(株)	152	仙建工業(株)
103	(株)ほくとう	153	東北電力(株)
104	環境技術(株)	154	(株)日立ソリューションズ東日本
105	青森朝日放送	155	ホシザキ東北(株)
106	青森宝栄工業(株)	156	トヨタ自動車東日本(株)
107	東北グリーンターミナル(株)	157	古川電気工業(株)
108	(株)エービッツ	158	(株)ホクエツ
109	(株)ビジネスサービス	159	大和電設工業(株)
110	(株)八戸テレビ放送	160	株式会社ダンロップタイヤ 東北カンパニー
111	アンデス電気(株)	161	Astemo仙台(株)
112	武輪水産(株)	162	(株)阿部長商店
113	エプソンアトミックス(株)	163	みちのくコンサルタント(株)
114	北日本計装(株)	164	(株)ホンダテクノフォート
115	株式会社ライトカフェU.	165	栃木セキスイハイム(株)
116	宮城建設(株)	166	(株)アセンド
117	(株)平野組	167	検査開発(株)
118	(株)タカヤ	168	(株)日立パワーソリューションズ
119	樋下建設(株)	169	(株)NESI
120	(株)ニュートン	170	(株)ナカヨ
121	イワフジ工業(株)	171	UDトラックス(株)
122	(公財)岩手県下水道公社	172	(株)前澤エンジニアリングサービス
123	盛岡セイコー工業(株)	173	(株)温泉道場
124	(株)IBCソフトアルファ	174	川口土木建築工業(株)
125	北良(株)	175	(株)宝幸
126	(株)アイシーエス	176	美和電気工業(株)
127	(株)めんこいメディアブレーション	177	(株)ワイ・デー・ケー
128	(株)佐々木組	178	SGモータース(株)
129	(株)中館建設	179	グローブシップ(株)
130	キオクシア岩手(株)	180	(独)自動車技術総合機構
131	高惣建設(株)	181	(株)ミライト・ワン
132	(株)岩本電機	182	(株)メイテックフィルダーズ
133	花巻温泉(株)	183	(株)不動テトラ
134	(株)十文字チキンカンパニー	184	建装工業(株)
135	(株)小原建設	185	三菱電機プラントエンジニアリング(株)
136	川口印刷工業(株)	186	りんかい日産建設(株)
137	日本住宅(株)	187	東日本旅客鉄道(株)
138	白石食品工業(株)	188	マルゼン工業(株)
139	いわて生活協同組合	189	(株)BREXA Technology
140	イオン東北(株)	190	タキゲン製造(株)
141	小坂製錬(株)	191	(株)エス・エヌ・シー
142	(株)菅与組	192	(株)エヌ・ティ・ティエムイー
143	(株)宮腰デジタルシステムズ	193	山九プラントテクノ(株)
144	秋田印刷製本(株)	194	日本電設工業(株)
145	(株)日情秋田システムズ	195	(株)アビリカ
146	羽後設備(株)	196	岡三リビック(株)
147	宮腰精機(株)	197	(株)NTT東日本ー南関東
148	(株)TTK	198	日本道路(株)
149	(株)ユアテック	199	前田道路(株)
150	(株)ネクスコ・エンジニアリング東北	200	エス・イー・シーエレベーター(株)

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

No.	企 業 等 名 称	No.	企 業 等 名 称
201	(株)きんでん	251	(株)ライトカフェ
202	(株)エイジェック	252	(株)ディックソリューションエンジニアリング
203	佐藤工業(株)	253	東京水道(株)
204	(株)レソリューション	254	(株)一条工務店
205	日鉄テックスエンジ(株)	255	(株)関電工
206	(株)アーネストワン	256	(株)丸藤シートパイル
207	ニューロン工業(株)	257	(株)LIXIL
208	東京鉄鋼(株)	258	山崎製パン(株)
209	サクサ(株)	259	(株)弘電社
210	(株)フォリウム	260	昭和アステック(株)
211	UTグループ(株)	261	新日本空調(株)
212	西松建設(株)	262	(株)村上商会
213	(株)ライテック	263	東芝システムテクノロジー(株)
214	内外施設工業(株)	264	(株)日本マイクロリンク
215	(株)テクノ菱和	265	(株)ネクスコ東日本エンジニアリング
216	(株)J-POWERハイテック	266	(株)来住野工務店
217	三和電子(株)	267	日立Astemo(株)
218	パーソルクロステクノロジー(株)	268	(株)アディスミューズ
219	マネックス証券(株)	269	合同酒精(株)
220	東光電気工事(株)	270	青木あすなろ建設(株)
221	(株)大泉製作所	271	三菱ケミカル物流(株)
222	リコージャパン(株)	272	(株)ウィルオブ・コンストラクション
223	(株)ビクソン	273	住友林業(株)
224	東京パワーテクノロジー(株)	274	松井建設(株)
225	(株)熊谷組	275	川崎圧延(株)
226	(株)HEXELWorks	276	前田建設工業(株)
227	長谷川体育施設(株)	277	ALSOK(株)
228	(株)フォーラムエンジニアリング	278	大林道路(株)
229	(株)日本ハウスホールディングス	279	(株)JFEプラントエンジ
230	(株)竹中土木	280	鉄建建設(株)
231	SUBARUテクノ(株)	281	エヌエス環境(株)
232	三菱電機ビルソリューションズ(株)	282	東テク(株)
233	(株)エス・イー・シー・ハイテック	283	キヤノンITソリューションズ(株)
234	(株)ジェイテック	284	キューピータマゴ(株)
235	渡辺パイプ(株)	285	東京電力ホールディングス(株)
236	セコム(株)	286	グローブライド(株)
237	REGAIN GROUP(株)	287	コマツカスタマーサポート(株)
238	東日本電気エンジニアリング(株)	288	ナビオコンピュータ(株)
239	東洋システム開発(株)	289	J-POWERジェネレーションサービス(株)
240	櫻井工業(株)	290	(株)NIPPO
241	ニチレキ(株)	291	日本データスキル(株)
242	太平電業(株)	292	(株)アルトナー
243	TDK(株)	293	富士電機E&C(株)
244	飛島建設(株)	294	大蔵工業(株)
245	五洋建設(株)	295	(株)ツガワ
246	日本国土開発(株)	296	ハル・エンジニアリング(株)
247	(株)ホーク・ワン	297	桜総業(株)
248	若築建設(株)	298	スズキ(株)
249	(株)メンバーズ	299	(株)コメリ
250	清水建設(株)	300	(株)NS・コンピュータサービス

【資料6】

人材需要等に関するアンケート調査依頼先一覧

[illegible]

学生確保⁴（資料6）

総合情報学部 総合情報学科

先進工学部 先進工学科

デザイン工学部 デザイン工学科

仮称 | 設置構想中 |

※設置計画は予定であり、変更する場合があります

○ACCESS

- JR東北新幹線「八戸駅」からJR八戸線に乗り換え「本八戸駅」下車。
「本八戸駅」より大学までバスで約35分、タクシーで約20分。
- JR東北新幹線「八戸駅」よりタクシーで大学直行約30分。

新幹線（最短乗車時間）

- 東京駅～八戸駅 2時間44分
- 盛岡駅～八戸駅 27分
- 仙台駅～八戸駅 1時間9分
- 新青森駅～八戸駅 23分
- 新青森駅～八戸駅 1時間22分

バス（本八戸駅から大学まで約35分）

- 八戸市営バス
・本八戸駅から「工業大学」行き、または「八戸学院大学」行きに乗車、「工業大学前」下車。
・「八戸中心街ターミナル（八日町）」から「工業大学」行き、または「八戸学院大学」行きに乗車、「工業大学前」下車。
- 南部バス
本八戸駅から「随上（はしかみ）中学校前」行き、または「随上庁舎前」行き「工業大学前」で下車。
※八戸市営バス、南部バスどちらも八戸駅から八戸中心街間シャトルバス多数運行。八戸中心街まで所要時間約30分。

自家用車（八戸南IC下車3分）

- 八戸駅～八戸工業大学 約30分
- 本八戸駅～八戸工業大学 約20分

飛行機

- 羽田～三沢 1時間15分
 - 札幌丘珠～三沢 1時間
 - 伊丹～三沢 1時間30分
- ※三沢空港から八戸中心街までは空港連絡バスをご利用ください。

フェリー（最短乗船時間）

- 苫小牧～八戸港 7時間30分
- ※八戸港からJR本八戸駅までの交通手段は、シルバーフェリー・ホームページ 等でご確認ください。

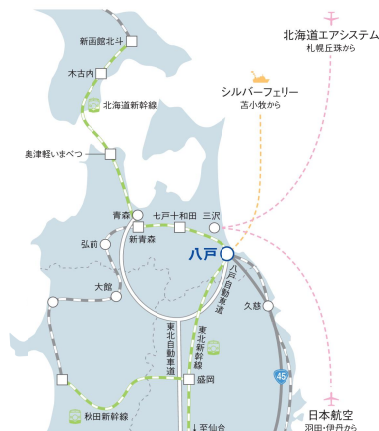
○学生納付金

項 目	総合情報学部／先進工学部／デザイン工学部
入学検定料	30,000円
入学金	250,000円
学費(授業料等)	1,272,000円
委託費(保護者後援会費等)	21,000円
初年度納付金	1,543,000円
2年次以降納付金(学費、委託費)	1,328,000円

※納付金は予定金額のため、変更となる可能性があります。

○同系統の学びのある大学・学部・学科・課程

- 東北学院大学
工 学 部／機械知能工学科・電気電子工学科・環境建設工学科
- 東北工業大学
工 学 部／電気電子工学課程・情報通信工学課程・都市工学課程・環境応用化学課程
建 築 学 部／建築学科
ライフデザイン学部／産業デザイン学科・生活デザイン学科・経営デザイン学科



HIT

HACHINOHE INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2027.4 UPDATE!

2027年4月、八戸工業大学は3学部3学科へ※

本学では、現在の2学部2学科5コースから、3学部3学科体制へのアップデートを構想しています。本学のビジョンである「工学×デザイン×地域」を高度に進化・深化させ、これからの社会に求められるグリーン分野とデジタル分野を強化した新たな学部・学科へ再構築。さらに、社会課題解決に必須な「デザイン思考」の習得にも力を入れ、文系・理系といった既存の考え方にとらわれることなく、この国の、この地球の「ミライを創る力」を持った人材を養成します。

※2027年4月開設予定 | 設置構想中 | 設置計画は予定であり、変更する場合があります

ミライをつくる知性を学ぶ

総合情報学部

〔総合情報学科〕

(定員100名)



育成をめざす人材像

情報科学やメディア情報等の幅広いデジタル技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、高度なデジタル社会を構築・推進するために必要な新たな価値や技術を創造し実装することができる人材を養成します。

ミライを変える技術を学ぶ

先進工学部

〔先進工学科〕

(定員100名)



育成をめざす人材像

情報リテラシーも含めた科学と工学分野におけるグリーン技術の基礎知識、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、持続可能なグリーン社会の実現のためにグリーンIT・グリーンデバイスといった先進技術の導入と運用を推進していく人材を養成します。

ミライを描くセンスを学ぶ

デザイン工学部

〔デザイン工学科〕

(定員100名)



育成をめざす人材像

地域づくり分野におけるデザイン活動の基礎となる知識と技術、それらを人と社会のために活用する際に必要なデザイン思考と応用展開能力を備え、地域の暮らしの豊かさと多様なあるべき姿を構想する力を有し、地域社会における資源と資産・インフラの価値化と共有の実現に携わることができる人材を養成します。

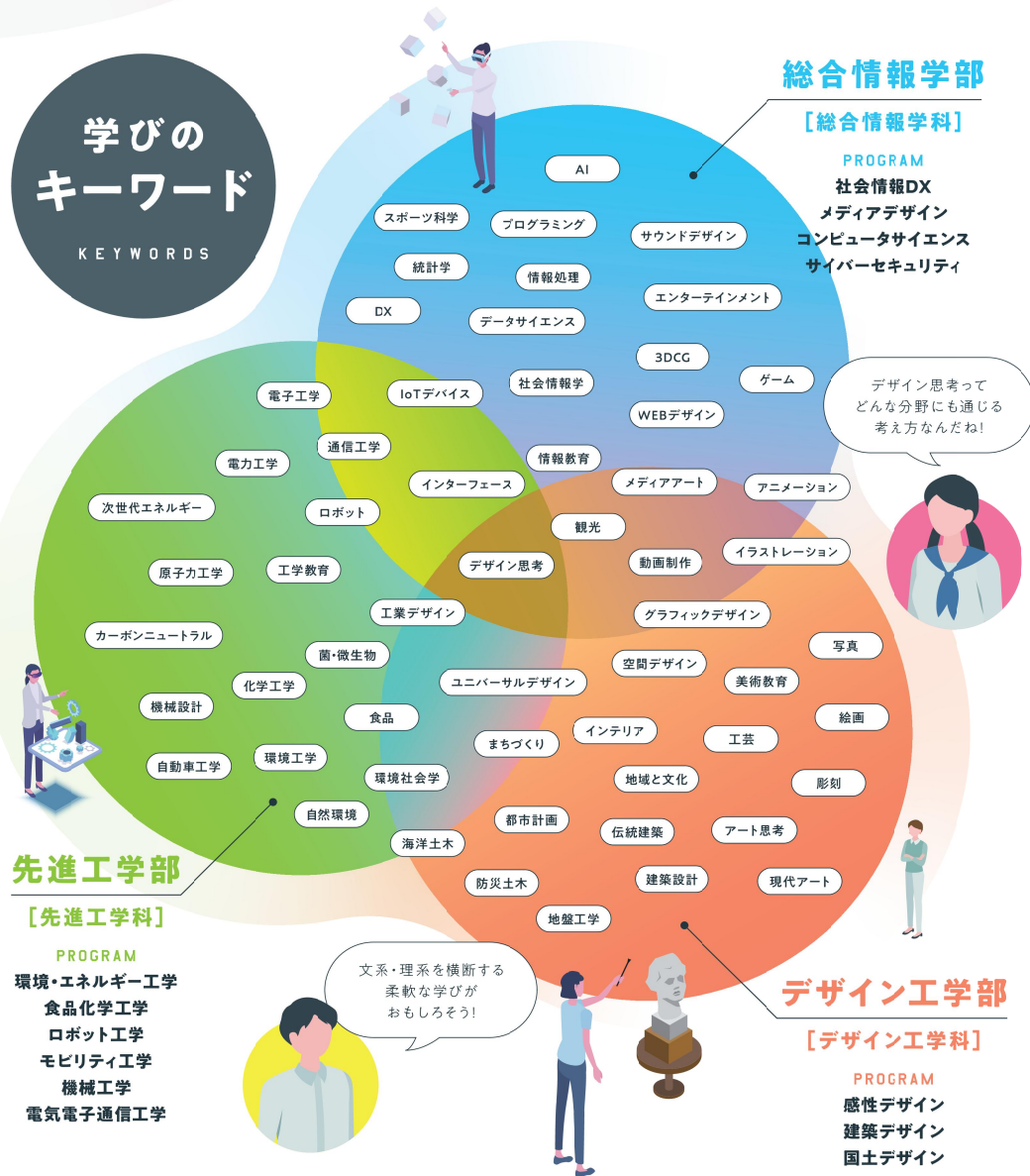


#シンHIT #文理YouGo! #green_digital_design

さあ、どんなミライへ進もうか？

学びの キーワード

KEYWORDS



新学部・学科の 将来像

FUTURE

